

PROTECTOR SUITE QL

バージョン 5.6

TouchChip

著作権表示および所有権に関する情報

提供される情報は正確で信頼性のあるものであるように努力されていますが、UPEK[®], Inc は、このような情報を使用した結果について、またこのような情報を使用することから生じる第三者の特許またはその他の権利の侵害に対して責任を負わないものとします。いかなるライセンスも、暗黙的にまたは UPEK, Inc. の特許または特許権のもとで付与されることはありません。この資料で言及している仕様は、事前の通知なく変更されることがあります。この資料は、以前に提供されたすべての情報に優先し、かかる情報に置き換わるものとします。UPEK, Inc の製品は、UPEK, Inc の書面による明示的な許可がない限り、ファイルサポートデバイスまたはファイルサポートシステムにおける重要な構成要素としての使用を認定されていません。

UPEK のロゴは UPEK, Inc の登録商標です。

© 2001-2007 UPEK[®], Inc - All Rights Reserved

その他すべての名称は、それぞれの所有者に所有権があります。

UPEK[®], Inc

<http://www.upek.com>

この製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) で使用することを目的に OpenSSL Project によって開発されたソフトウェアが組み込まれています。

この製品には Eric Young 氏 (eay@cryptsoft.com) が開発した暗号ソフトウェアが組み込まれています。

商標

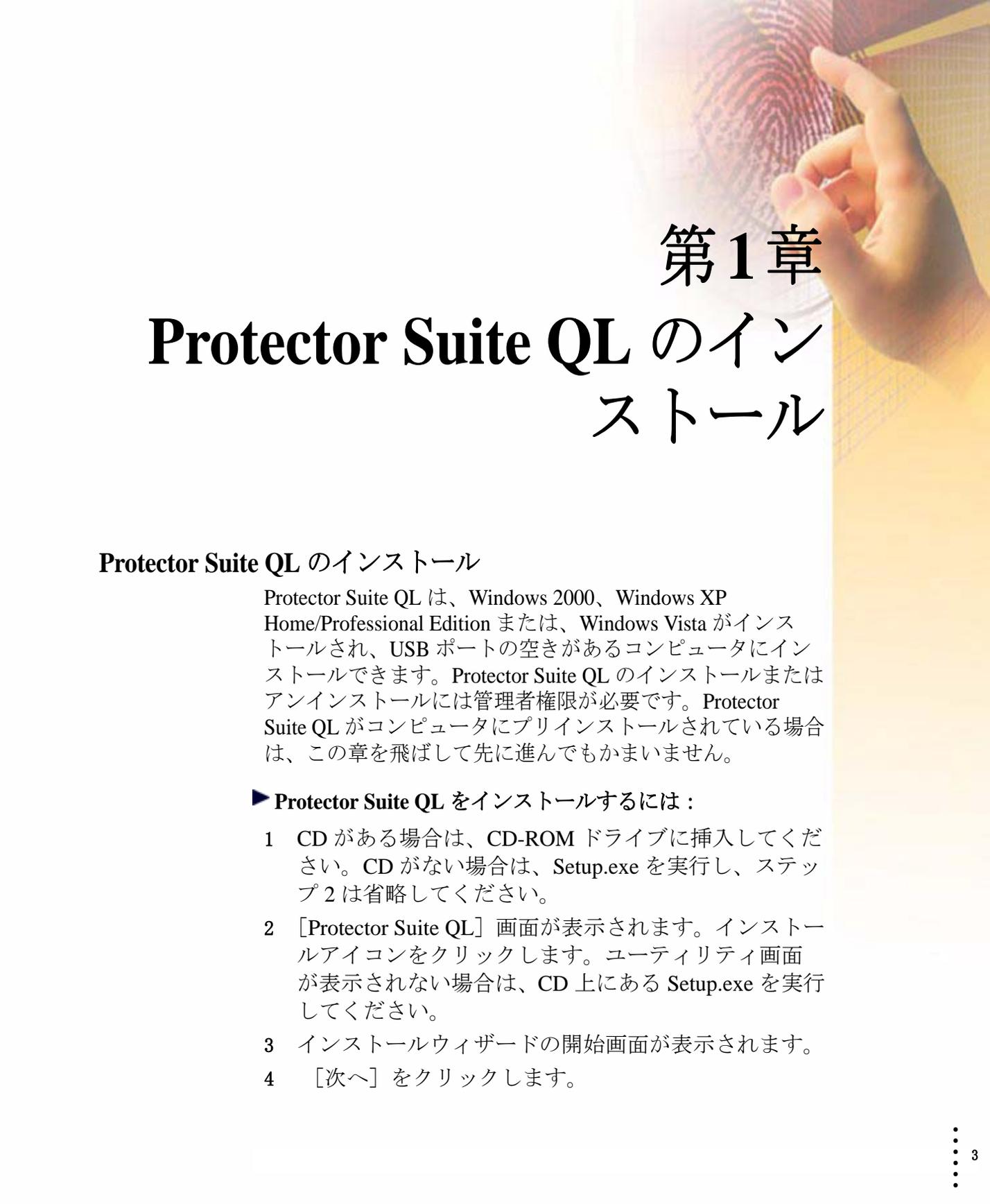
TouchChip[®]、Protector Suite[™] は UPEK, Inc の商標です。この資料で言及しているその他すべての製品は、それぞれの所有者の商標であり、そのように扱われるものとします。

目次

第 1 章 Protector Suite QL のインストール	3
Protector Suite QL のインストール	3
Protector Suite QL のアンインストール	4
第 2 章 はじめに	7
指紋の登録	8
主要機能へのアクセス	9
バイオメトリックメニュー	9
コントロールセンター	9
システムトレイアイコン	10
ヘルプの使用	11
第 3 章 Protector Suite QL の使用	13
指紋の登録	14
最初の使用	14
指紋チュートリアル	20
拡張セキュリティ	23
指紋ログオン	24
ユーザーの簡易切り替え	26
Windows パスワードの変更 (リセット)	26
パスワードバンク	29
Web ページとダイアログの登録	29
さまざまなフォーマットによる Web サイトやダイアログの登録	32
登録の管理	33
パスワードバンクのヒントの有効化 / 無効化	35
アプリケーションランチャー	36
File Safe	40
ファイルの暗号化 (File Safe アーカイブへのファイルまたはフォルダの追加)	40
File Safe アーカイブのロックとアンロック	43
File Safe アーカイブのファイルの解読	45
File Safe アーカイブへのアクセスの共有	46
File Safe アーカイブの管理	48
第 4 章 Protector Suite QL の管理	51
コントロールセンター	51
指紋	53
設定	57
ヘルプ	76
バイオメトリックメニュー	77

システムトレイアイコン	79
指紋読み取り装置の情報パネル	80
第 5 章 Protector Suite QL のトラブルシューティング	81
インストール	81
指紋の登録	82
ユーザーの簡易切り替え	86
ログオン	86
パスワードバンク	86





第1章 Protector Suite QL のインストール

Protector Suite QL のインストール

Protector Suite QL は、Windows 2000、Windows XP Home/Professional Edition または、Windows Vista がインストールされ、USB ポートの空きがあるコンピュータにインストールできます。Protector Suite QL のインストールまたはアンインストールには管理者権限が必要です。Protector Suite QL がコンピュータにプリインストールされている場合は、この章を飛ばして先に進んでもかまいません。

▶ Protector Suite QL をインストールするには：

- 1 CD がある場合は、CD-ROM ドライブに挿入してください。CD がない場合は、Setup.exe を実行し、ステップ2は省略してください。
- 2 [Protector Suite QL] 画面が表示されます。インストールアイコンをクリックします。ユーティリティ画面が表示されない場合は、CD 上にある Setup.exe を実行してください。
- 3 インストールウィザードの開始画面が表示されます。
- 4 [次へ] をクリックします。

- 5 ユーザー情報画面が表示されます。
- 6 必要な情報を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 インストール先ディレクトリを確認または選択します。
- 8 [次へ] をクリックして、セットアッププログラムを実行します。
- 9 インストールが完了したら、表示されるプロンプトに従ってコンピュータを再起動します。

これでインストールは完了です。コンピュータを再起動するとログオン画面が表示されます。

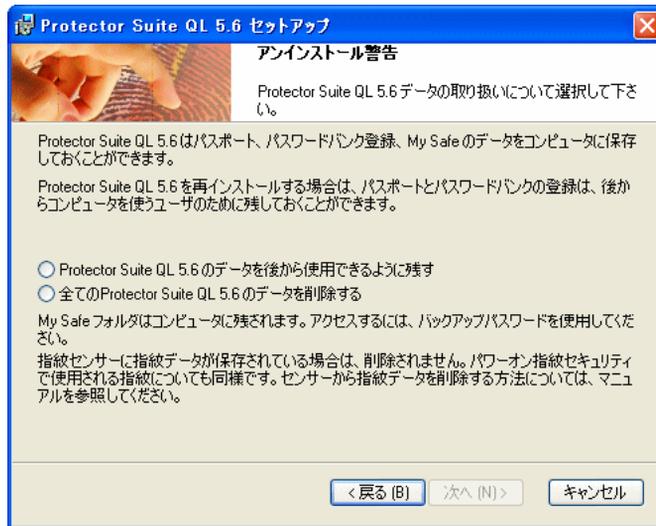


メモ：この過程で、必要なデバイスドライバもすべてインストールされます。外付け指紋センサーは（使う場合）、インストールが終了しコンピュータを再起動してから接続してください。

Protector Suite QL のアンインストール

▶ Protector Suite QL をアンインストールするには：

- 1 [スタート] - [コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックします (Windows Vista の場合は [プログラムと機能])。
- 3 [Protector Suite QL] を選択し、[変更] ボタンをクリックします。
- 4 [削除] ボタンをクリックします。



- 5 コンピュータに保存されている Protector Suite QL のデータの扱いを指定するよう求められます。次の2つの選択肢があります。
 - Protector Suite QL のデータを後で使用できるようにコンピュータに残す。この場合、Protector Suite QL を後で再インストールすると、残しておいた指紋データを再び使用して、暗号化された File Safe アーカイブのデータにアクセスしたり、コンピュータにログインしたり、パスワードバンクの登録にアクセスしたりできるようになります。
 - すべての Protector Suite QL データをコンピュータから削除します。指紋データやパスワードバンクの登録内容は完全に削除されます。後で復元することはできません。



第2章 はじめに

Protector Suite QL は、指紋認証を使用して、データのセキュリティ保護を行うソフトウェアです。指紋認証は、指紋センサー上で指を読み取ることで実行します。

ソフトウェアをインストールして、コンピュータを再起動したら、指紋を登録して、ユーザー名、パスワードおよび指紋を関連付ける必要があります。これにより、セキュリティキーが自動的に生成されます。すべてのデータはユーザーのパスポートに格納されます。この手順を「指紋登録」といいます。

指紋を登録すると、次の操作が可能になります。

- 指紋センサーを使用した「起動前認証」および Windows OS ログオン (24 ページの「指紋ログオン」を参照)
- パスワードと置き換える Web ページや Windows アプリケーションの登録 (29 ページの「パスワードバンク」を参照)
- センサーでの指の読み取りのみによるお気に入りアプリケーションの起動 (36 ページの「アプリケーションランチャー」を参照)
- 機密情報を暗号化されたフォーマットで保護されたフォルダへ保存 (40 ページの「File Safe」を参照)

この章では、ソフトウェアの操作を容易に始められるように主要機能について説明します。各機能の詳しい説明については 13 ページの「Protector Suite QL の使用」(第 3 章)を参照してください。また、Protector Suite QL の管理方法については 51 ページの「Protector Suite QL の管理」(第 4 章)を参照してください。



メモ：各 Windows ユーザーは Protector Suite QL 固有のパスポートを作成する必要があります。

指紋の登録

Protector Suite QL では、各ユーザーの識別にパスポートを使います。このファイルには生体認証用の指紋データが格納され、ユーザーの認証に使用されます。

ソフトウェアを初めて使用するときには、パスポート用に指紋のサンプルを作成する必要があります。

▶ [登録] ウィザードを起動するには：

- [スタート] メニュー - [プログラム] - [Protector Suite QL] - [ユーザー登録] を選択します。

画面の指示に従って操作してください。詳細については、14 ページの「指紋の登録」(第 3 章)を参照してください。

主要機能へのアクセス

バイオメトリックメニュー

バイオメトリックメニューを使うと、Protector Suite QL の各機能を簡単に実行できます。たとえば、コンピュータをロックしたり、登録されたサイト、Web サイト、ダイアログなどを起動したり、アーカイブファイルをロックしたり、ヘルプを表示したりできます。



▶ バイオメトリックメニューを表示するには：

- いずれかの指を登録すれば、その指を指紋センサーで読み取ることで、バイオメトリックメニューを表示できます。

バイオメトリックメニューの項目については、77 ページの「バイオメトリックメニュー」(第4章)を参照してください。

コントロールセンター

Protector Suite QL の [設定] の全般的な設定や、[指紋] の管理機能には (パスポートの編集や削除など)、[コントロールセンター] ダイアログからアクセスできます。

▶ コントロールセンターを表示するには：

- [スタート] - [プログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] を選択します。

- 指を読み取ってバイOMETリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始 ...] を選択します。

コントロールセンターのメイン画面が表示されます。この画面には、ソフトウェアの主要機能が表示されます。機能の名前をクリックすると、画面に使用できる操作が一覧表示されます。これには、[指紋]、[設定]、[ヘルプ] があります。



コントロールセンターとその機能の詳細については、51 ページの「コントロールセンター」(第4章)を参照してください。

システムトレイアイコン

システムトレイの Protector Suite QL アイコンは Protector Suite QL が実行中であることを示し、指紋認証が不要な機能はここから操作できます。

- ▶ アイコンを右クリックして、メニューを表示します。



システムトレイアイコンのメニュー項目については、79 ページの「システムトレイアイコン」(第4章)を参照してください。

ヘルプの使用

Protector Suite QL には、HTML ベースのヘルプシステムが用意されています。

- ▶ HTML ヘルプを表示するには：

- [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [ヘルプ] を選択します。
 - バイオメトリックメニューから [ヘルプ] を選択します。
 - トレイアイコンを右クリックし [ヘルプ] を選択します。
 - コントロールセンターダイアログの [ヘルプ] アイコンをクリックします。
- また、ほとんどのダイアログで状況依存のヘルプを表示できます。

- ▶ 状況依存のヘルプを表示するには：

- HTML ヘルプが必要なダイアログで F1 を押します。



第3章 Protector Suite QL の使用

この章では、Protector Suite QL の機能について詳しく説明します。

- 14 ページの「指紋の登録」
- 24 ページの「指紋ログオン」
- 29 ページの「パスワードバンク」
- 36 ページの「アプリケーションランチャー」
- 40 ページの「File Safe」

指紋の登録

Protector Suite QL の使用を始める前に、(複数の) 指を登録する必要があります。指紋登録では、ユーザー名、パスワード、指紋 (元のイメージを復元できないように処理したもの)、および自動生成されたセキュリティキーの対応付けを行います。すべてのデータは指紋パスポートに保存されます。

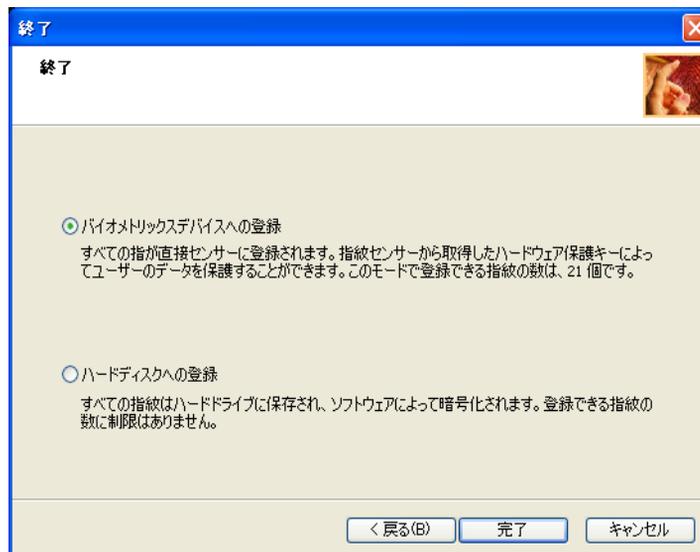
最初の使用

▶ 新しいパスポートを作成するには (指紋の登録) :

- 1 外付け指紋センサーを使う場合、そのデバイスを接続します。必要なドライバはすべて Protector Suite QL と共にインストールされています。センサーが接続され、使用する準備が完了したという情報メッセージが、画面の右下に表示されます。
- 2 使用許諾契約書が表示されます。使用許諾契約書をよくお読みください。
- 3 使用許諾契約書に同意するかどうか、ラジオボタンで選択します。メモ：この製品をインストールするためには使用許諾契約書に同意する必要があります。使用許諾契約書に同意できない場合は [キャンセル] ボタンをクリックして、アプリケーションを終了してください。
- 4 [登録] ウィザードを起動するには、以下の操作を行います。
[スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [ユーザー登録] を選択します。
または、コントロールセンターの [指紋] - [指紋の登録、または編集] を選択します。
トレイアイコンをクリックして、[指紋の編集 ...] を選択します。



- 5 登録タイプを選択するように求められます。デバイスがデバイスメモリへの登録に対応している場合、認証データをデバイスメモリに保存するか、ハードディスクに保存するかを選択できます。



・ デバイスメモリへの登録を選択した場合、データにアクセスする際に対応する指紋デバイスが必要になります。認証情報は、指紋認証ユーティリティによって生成されたソフトウェアの暗号化キーだけでなく、デバイスから直接取得したハードウェアの暗号化キーによっても保護されます。

・ 制限はデバイスメモリのサイズのみです。一部のユーザーに対してデバイスメモリの制限を超える数の指紋を登録する場合(通常メモリサイズでは 21 個までの指紋を登録できます)、ハードディスクへの登録が必要になります。[ハードディスクへの登録] を選択した場合、データはソフトウェアキーで暗号化されます。生体認証を任意の指紋読み取り装置で行うことができます。

重要： 選択した登録タイプを後から変更することはできません。変更する唯一の方法は、**Protector Suite QL** をアンインストールして、再インストールすることです。

- 6 ユーザー名、パスワード、ドメイン(必要な場合)を入力し、[次へ] をクリックします。

- 7 [次へ] をクリックすると指紋チュートリアルに切り替わります。または、[対話型チュートリアルを実行する] チェックボックスをオフにして、[次へ] をクリックし、チュートリアルをスキップします(チュートリアルの手順については 20 ページの「指紋チュートリアル」を参照)。



8 登録する指の上にあるボックスをクリックします。チュートリアルに



従って、指のサンプルを3つ作成します(20ページの「指紋チュートリアル」を参照)。これらのサンプルは、1つの指紋パスポートに統合されます。作成した3つのサンプルが一致しない場合は警告が表示されます。

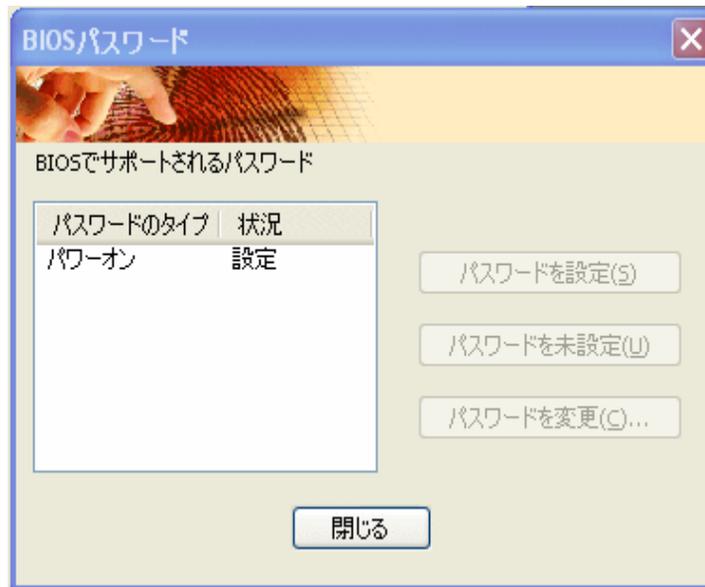
9 (オプション) デバイスへの登録が選択され、システム設定でパワーオンセキュリティが有効になっている場合、登録されているすべての指紋はパワーオンセキュリティにも使用されます。

10 (オプション) ハードドライブへの登録が選択され、システム設定でパワーオンセキュリティが有効になっている場合、登録されている指紋はパワーオンセキュリティにも使用されます。

デバイスのメモリには制限があるため、格納できる指紋の数は最大で 21 個です。パスポートに登録されている指紋の中に、デバイスのパワーオンセキュリティに割り当てられていないものがある場合 (別のデバイスが接続されている場合など)、それぞれの指の上に [パワーオン] ボタンが表示されます。既定では、[パワーオン] ボタンは " 押された " 状態で表示されます。対応する指がパワーオンセキュリティに使用されます。パワーオンセキュリティに指を使用せず、ログオンにのみ使用する場合、[パワーオン] ボタンをクリックして、デバイスメモリから指を削除します。

11 (オプション) お使いの BIOS が安全な BIOS パスワードに対応している場合、[パワーオンセキュリティ] ページが表示されます。指紋の代わりに使用するパスワードを選択します (パスワードを選択すると、パスワードを入力するように求められます)。

ローカルの管理者は、ここから BIOS のパスワードを管理することもできます。[パスポートの管理] ボタンをクリックすると、[BIOS パスワード] ダイアログが開き、パスポートを設定、または変更できます。



- 12 別の指を選択してその指紋を登録します。最大 10 本の指の指紋を登録できます。指をケガした場合を考慮し、複数の指を登録することを強く推奨します。終了したら、[次へ] をクリックします。
- 13 一部のハードウェアの設定では、暗号化によってさらにデータセキュリティが強化されます。このような設定では、拡張セキュリティのタイプの追加ダイアログが表示されます。
 - ・ [現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする] をオンにして、TPM などの追加の暗号化を指定できるようにします。
 - ・ 拡張セキュリティのタイプを設定します。詳細については 23 ページの「拡張セキュリティ」を参照してください。
 - ・ バックアップパスワードを作成します。このパスワードは、センサーのハードウェア故障時に、指紋認証を省略するときを使用します。
- 14 パワーオンセキュリティに追加されている指については、最終ページで説明されている以下の操作を実行する必要があります。
 - ・ コンピュータの電源を切ります。
 - ・ コンピュータの電源を入れます。
- 15 プロンプトが表示されたら指をスキャンします。これで終了です。[完了] をクリックしてください。

- 16 登録ウィザードを完了すると、[紹介] 画面に、**Protector Suite QL** で指紋を使用できる方法の例が表示されます。

指紋を登録した後、指を使って以下のことができます。

- ・ コンピュータアカウントにアクセスする。
- ・ バイオメトリックメニューにすべての機能を表示する (コンピュータのロック、ページやダイアログの登録など)。バイオメトリックメニューでの移動は、センサー上で指を動かすことで可能です。
- ・ 登録済みフォームまたはダイアログに入力する。
- ・ お気に入りのアプリケーションを起動する。



メモ：パスポートは、Windows のユーザーごとに 1 つしか作成できません。ユーザーアカウントを作成するには、[スタート] - [コントロールパネル] を選択し、[ユーザーアカウント] をクリックします。画面の指示に従って操作してください。

指紋チュートリアル

指紋チュートリアルを実行することを強くお勧めします。チュートリアルでは、指紋の正しいスキャン方法、誤ったスキャン方法を、短いビデオで説明しています。また、実際に指紋をスキャンしてみることができます。

▶ 指紋に関するチュートリアルを実行するには：

- 1 チュートリアルを起動するには、[スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [指紋チュートリアル] を選択します。
指紋登録のウィザードから実行します。
コントロールセンターダイアログで、[ヘルプ] - [チュートリアル] を選択します
- 2 最初のページでは、チュートリアルの目的が説明されます。

- 3 次のページでは、正しいスキャン方法の説明と、短いデモンストレーションビデオが表示されます。



- ・ センサーの中央に指を平らに置きます。
- ・ 指の第一関節から滑らかになぞってスキャンします。
- ・ センサーでスキャンしている間、指を上げないでください。

- 4 次のページでは、指紋のサンプルを4つ作成します。サンプルどうしが一致しない場合は、[やり直し] ボタンをクリックして再度読み取ります。[ビデオ再生] ボタンでビデオのデモンストレーションを再生できます。サンプルを正しく作成できたら、[完了] をクリックしてチュートリアルを閉じるか、登録ウィザードに戻ります。



 メモ：バイオメトリックス操作（登録、認証、チュートリアル）は、節電のため、約2分間何も操作が行われないとタイムアウトになります。タイムアウトになった場合は、プロセスを再起動します。

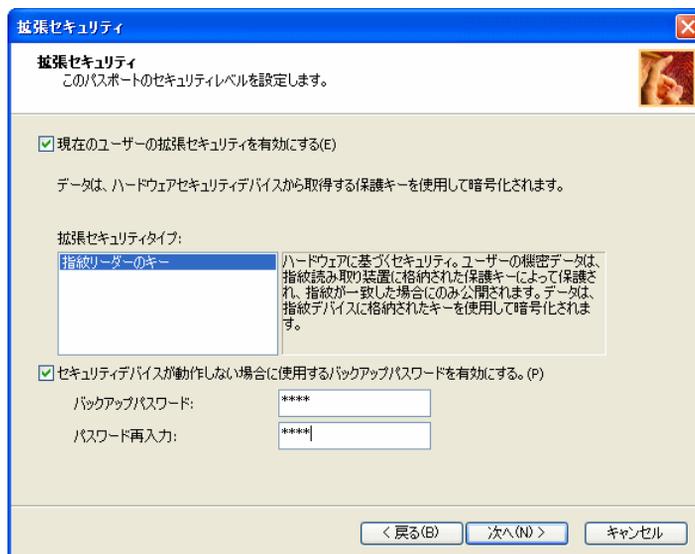
拡張セキュリティ

Protector Suite QL のセキュリティは、暗号化を適用することによってさらに向上します。適用できる暗号化方式は、ハードウェアによって異なります。拡張セキュリティの有効/無効は、ユーザーごとに、[指紋の登録、または編集] ウィザードの最後に設定できます。暗号化のタイプは、このダイアログで変更することで、必要なセキュリティレベルとユーザーの都合に合わせて調整できます。

▶ 拡張セキュリティを有効にする (オプション)

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [ユーザー登録] を選択します
- 2 登録後の [拡張セキュリティ] ダイアログで、[現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする] を選択して現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にします。
- 3 [拡張セキュリティ] のタイプを設定します。

。



- ・ 指紋リーダーキー (TPM あり) : 専用のハードウェアを使う、高度なセキュリティ方式です。TPM セキュリティチップと指紋読み取り装置の通信チャネルを暗号化することにより、機密データのセキュリティをさらに高めます。最高のセキュリティを必要とする場合にお勧めの方式です。
 - ・ 指紋リーダーのキー : 専用のハードウェアを使うセキュリティ方式です。指紋読み取り装置内に格納された保護キーを使って機密データを暗号化します。指紋が一致しなければ復号できません。データの暗号化キーは、指紋デバイスに保存されているものを使います。
 - ・ TPM キー (PIN あり) : ユーザーの暗号化データは、TPM セキュリティチップにより PIN 付きで保護されます。PIN は ID 認証のたびに入力する必要があります。セキュリティを高めるためにはお勧めの方式です。
 - ・ TPM キー (PIN なし) : ユーザーの暗号化データは、TPM セキュリティチップによって保護されます。非常に使いやすいのでお勧めです。
- 4 バックアップパスワードを設定します。このバックアップパスワードは、ハードウェアの故障時など、指紋認証を省略したいときに使用します。複雑で推測しにくいパスワードの使用をお勧めします。設定しておかないと、認証ハードウェアが故障した場合、データが失われてしまう恐れがあります。

指紋ログオン

指紋ログオンを有効にするには、指紋を登録する必要があります (14 ページの「指紋の登録」を参照)。ユーザー登録時に、指紋サンプルがスキャンされ、指紋サンプルと Windows ユーザーアカウントが関連付けられます。コンピュータを再起動して、再度ログオンするときには、ログオンダイアログが表示され、センサーで指を読み取るか、または **Ctrl + Alt + Del** を押して Windows パスワードを使用してログオンするように要求されます。一度読み取りを行うと、登録した指紋が認識されて、ログオンできます。

生態認証ログオンは、スクリーンセーバーや、省電力機能からの復帰の保護も行います (スクリーンセーバーやスタンバイからのパスワードで保護された復帰をシステムで設定する必要があります。[スタート]- [コントロールパネル] を選択し、[画面] をクリックします。[スクリーンセーバー] タブを選択してスクリーンセーバーを選択します)。

▶ 指紋ログオンを無効にするには：

- ・ [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイOMETリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- ・ [システム設定]- [ログオン] を選択します。
- ・ [標準 Windows ログオン] ラジオボタンを選択します。指紋ログオンが無効になり、システムに標準の Windows ログオンを使用してログオンできるようになります。

▶ 指紋ログオンを有効にするには：

- ・ [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイOMETリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- ・ [設定]- [システム設定]- [ログオン] を選択します。
- ・ [指紋ログオン] ラジオボタンを選択すると、Windows パスワードの代わりに指紋を使用したシステムログオンが有効になります。

ログオン設定の詳細については、第 4 章「コントロールセンター」の 58 ページの「ログオン」を参照してください。



メモ：コンピュータの保護のためには Windows パスワードを設定しておく必要があります。Windows パスワードを設定しておかないと、Protector Suite QL があってもアクセスの安全性を保証することはできません。

Protector Suite QL は、Novell ネットワークのログオンとも連携します。Protector Suite QL を介して Novell ネットワークに自動ログオンするためには、Windows 側のユーザー名とパスワードが、Novell 側のそれと一致している必要があります。Novell クライアントの 4.83 および 4.90 では、Protector Suite QL は動作しません。

ユーザーの簡易切り替え

Windows のユーザーの簡易切り替え機能にも対応しています。ユーザー A がログオン中の場合にユーザー B (ユーザー登録済み) がセンサーで指をスキャンすると、Protector Suite QL によってユーザー B の指紋が認識され、ユーザーが切り替えられます。

▶ ユーザーの簡易切り替えを有効にするには：

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
- 2 指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 3 [設定] - [システム設定] を選択します。
- 4 [ログオン] タブを選択します。
- 5 [ユーザーの簡易切り替え (FUS) サポートを有効にする] オプションを選択します。このオプションが表示されていない場合、FUS はお使いのシステムではサポートされていません (コンピュータがドメインのメンバーである場合など。FUS サポートを有効にするには、ドメインからコンピュータを削除する必要があります。)

▶ コンピュータをドメインから削除するには：

- 1 デスクトップまたは [スタート] メニューで [マイコンピュータ] (Windows Vista では [コンピュータ]) を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- 2 Windows Vista の場合は、[設定の変更] リンクをクリックして、自分自身を管理者として認証します。
- 3 [コンピュータ名] タブを選択します。
- 4 [変更] ボタン (または [名前の変更]) をクリックして、[所属するグループ] パネルの [ワークグループ] ラジオボタンを選択します。



メモ：ドメインからコンピュータを削除できるのは管理者だけです。

Windows パスワードの変更 (リセット)

Windows ログオンパスワードは、ユーザーがコントロールパネルまたは Ctrl + Alt + Del ダイアログを使用して変更することも、管理者がパスワードリセットを使用して変更することもできます。Protector Suite QL に対しては、両方のパ

スワードの変更方法に違いはありません。シナリオは、使用されるユーザーアカウントの種類と、ユーザーがコンピュータにログオンする方法によって異なります。

これは、Windows 2000、および Windows XP に適用されます (Windows Vista では、機能は似ていますが表示される GUI が異なります)。

ワークグループまたはドメイン内のコンピュータでローカルユーザーアカウントが使用された場合、次の 2 つのシナリオが考えられます：

- 1 ユーザーが Windows のユーザー名とパスワードを使用してログオンした後にパスワードが変更された場合。
 - ・ユーザーがコンピュータをロックするか、またはログオンします。
 - ・ユーザーが登録済みの指紋をスキャンします。
 - ・間違ったユーザー名またはパスワードが使用されているという警告が表示されます。
 - ・ユーザーは新しいパスワードを入力する必要があります。このパスワードが指紋パスポートに格納され、パスポートが更新され、ユーザーはコンピュータにログオンされます。次回以降の指紋ログオンは通常どおりに行われます。
- 2 ユーザーが登録済みの指紋を使用してログオンした後にパスワードが変更された場合。
 - ・パスワードは指紋パスポートに格納されます。後で新しいパスワードを再入力する必要はありません。
 - ・ユーザーがコンピュータをロックするか、またはログオフします。
 - ・ユーザーが登録済みの指紋を読み取ります。
 - ・コンピュータがアンロックされるか、またはユーザーがログオンします。

ドメイン内でドメインユーザーアカウントが使用された場合：

ユーザーが Windows のユーザー名とパスワードまたは登録済みの指紋を使用してログオンし、その後でパスワードが変更された場合。

- ・ユーザーがコンピュータをロックするか、またはログオンします。
- ・ユーザーが登録済みの指紋をスキャンします。
- ・間違ったユーザー名またはパスワードが使用されているという警告が表示されます。

- ・ユーザーは新しいパスワードを入力する必要があります。このパスワードが指紋パスポートに格納され、パスポートが更新され、ユーザーはコンピュータにログオンされます。次回以降の指紋ログオンは通常どおりに行われます。

特殊なケース：

"ユーザーは次回のログオン時にパスワード変更が必要"が設定されているか、またはドメイン上でパスワードの有効期限が指定されている場合。

- ・クライアントコンピュータ上でユーザーが登録済みの指紋を使用してログオンします。
- ・ユーザーにパスワードを変更するよう求めるダイアログが表示されます。このパスワードが指紋パスポートに格納され、パスポートが更新され、ユーザーはコンピュータにログオンされます。次回以降の指紋ログオンは通常どおりに行われます。

パスワードバンク

パスワードバンクは、Protector Suite QL のオプションの機能です。パスワードバンクをインストールすると、Web サイトやアプリケーションのダイアログの登録(ユーザー名、パスワード、その他の設定)が保存されます。これにより、ユーザー名、パスワード、フォームデータなどを再入力せずに、安全に繰り返し Web サイトやアプリケーションにアクセスできます。Web ページやダイアログを登録する際に 1 回だけ必要な情報を入力すれば、次回以降、同じウィンドウを開いたときに、センサーを使ってデータをリプレイできるのです。登録済み Web サイトは、バイオメトリックメニューから直接開くことができます。

パスワードバンクは、Internet Explorer 5.0 以降、および Firefox 1.0 ~ 1.5 をサポートしています。Internet Explorer のサポートは自動的にインストールされます。Firefox が検出されると、サポートを有効にするかどうかを確認するメッセージが表示されます。また、Firefox のサポートは、[コントロールセンター]- [設定]- [ユーザー設定]- [パスワードバンク] で有効にすることもできます。ブラウザでパスワードバンクを使用できるようにするには、対応するチェックボックスをオンにしてください(このオプションを表示し、他のブラウザを有効にできるのはローカル管理者のみです)。

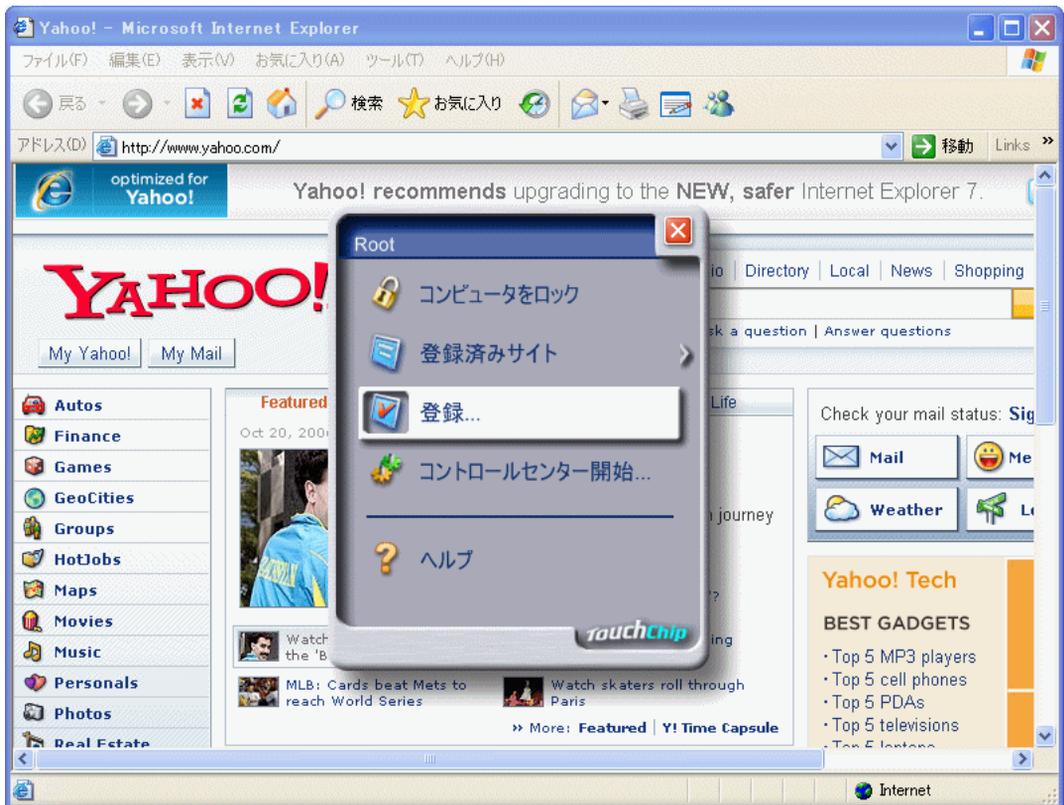
64 ビットシステム上で動作する 32 ビットアプリケーションの登録は対応していません。

Web ページとダイアログの登録

Web サイトやパスワードダイアログの登録(ユーザー名、パスワード、その他の設定)を保存するには、Web サイトやダイアログを登録する必要があります。これにより、登録情報を後からリプレイできます。つまり、センサーで指紋を読み取った後、自動的な入力が行われます。

▶ 新しい登録を作成するには：

- 1 登録したい Web ページまたはダイアログを表示します。
- 2 ユーザー名、パスワード、およびその他の必要なフィールドに入力します。
- 3 指をスキャンしてバイオメトリックメニューを開きます。
- 4 [登録...] を選択します。



入力したすべてのデータが保存されます。登録を作成すると、登録が作成されたことを確認するヒントがブラウザの端に表示されます(ヒントの有効/無効を切り替える方法については35ページの「パスワードバンクのヒントの有効化/無効化」を参照)。このヒントダイアログから登録内容を直接編集するには、[編集]をクリックします。

登録のリプレイ

登録をリプレイすると、登録済みの Web サイトが起動され、登録済みの資格情報を使用して自動的にログオンされます。

▶ 登録済み Web ページをリプレイするには：

- 1 登録済みのダイアログまたは Web サイトを表示します。
- 2 指を指紋センサーでスキャンします。
- 3 (オプション) ダイアログをリプレイするためのヒントが表示された場合は、ここで、ダイアログをリプレイすることを確認します。
- 4 登録内容がリプレイされます。

▶ 登録済み Web サイトの起動には、バイオメトリックメニューも使用することができます。

- 指を読み取り、バイオメトリックメニューを開きます。
- [登録済みサイト] を選択します。登録済みサイトの一覧が表示されます。
- サイトをクリックすると、サイトがブラウザに表示され、登録がリプレイされます。または [戻る] をクリックして、バイオメトリックメニューに戻ります。



さまざまなフォーマットによる Web サイトやダイアログの登録

さまざまなフォーマットによる Web サイトの登録

パスワードバンクは個々のフォームを登録します。サイトに複数のフォームが含まれる場合、フォームごとに登録が必要になります。これは、アクティブになっているフォームだけが登録されることを意味します。

登録が既に存在するページにフォーム (1 ページに複数のフォーム) を登録するには、**Shift** キーを押しながら指を読み取り、バイオメトリックメニューを表示します (ページが既に登録されている場合は、**Shift** キーを押さずにセンサーで指を読み取ると、既存の登録がリプレイされます)。

- アクティブなフォームが登録されます。
- アクティブなフォームが存在しない場合、**Internet Explorer 5.5** 以上を使用していれば、ユーザーは登録するフォームを選択するよう要求されます。
- 上記以外の場合、処理は行われません。

サンプルシナリオ：

ページには登録が存在しないものとします。このページにフォーム A とフォーム B が存在します。

- フォーム A への入力が完了し、このフォームはまだアクティブな状態にあります。センサーで指を読み取ります。フォーム A が登録されます。
- フォーム A への入力が完了したので、フォーム B に移動し、フォーム B がアクティブになりました。センサーで指を読み取ります。フォーム B が登録されます (ただし中身は空です)。
- フォーム A への入力が完了し、フォームの外側をクリックしたので、どのフォームもアクティブではなくなりました。ブラウザは **Internet Explorer 5.5** 以上を使用しています。センサーで指を読み取ります。登録するフォームを選択するよう要求されます。
- フォーム A への入力が完了し、フォームの外側をクリックしたので、どのフォームもアクティブではなくなりました。ブラウザは **Internet Explorer** の初期のバージョンを使用しています。処理は行われません。

さまざまなフォームでの Web サイト登録のリプレイ：

ページをバイオメトリックメニューの [登録済みサイト] から表示すると、既存の登録が自動的にリプレイされます。ページを手動で表示して登録をリプレイするには、センサーで指を読み取ります。

- 既存のフォームの総数に関係なく、ページの登録が 1 つしかない場合は、その登録がリプレイされます。
- 複数の登録済みフォームがあり、登録済みフォームのうち 1 つがアクティブな場合、そのフォームがリプレイされます。
- アクティブなフォームがない場合、このページの既存の登録がすべてリプレイ候補として提示されます。

複雑なダイアログの登録とリプレイ

パスワードバンクは、主に、ユーザー名とパスワードのフィールドを表示する単純なダイアログ (通常は各種アプリケーションへのログインダイアログ) を登録するための機能です。

これよりも複雑なダイアログは、サポートされていません。テキストフィールドとパスワードフィールドはいつでも登録可能です。登録では、非表示、無効、または最小化されていないコントロールが保存されます。標準の Windows コントロール (システムダイアログなど) を使用しているアプリケーションのラジオボタン、チェックボックス、コンボボックス、およびリストボックス内の選択項目が登録されます。登録されたすべての情報は、パスワードの変更を要求された場合などに編集可能です。

ページが複数あるダイアログでは、問題が発生する場合があります。場合によっては、すべてのページが 1 つにまとめて登録される可能性があります。パスワードバンクでは、使用前にコントロールが作成されておらず、コントロールを描画するだけのダイアログは正常に処理されません。一般的な例として、Microsoft Office の一部のダイアログが挙げられます。

登録済みのダイアログをリプレイするとき、一部のコントロールの変更によりユーザー応答が必要な操作が呼び出される場合、パスワードバンクはダイアログの処理を中断して待機し、操作が終了してからリプレイを完了します。

登録の管理

会社の住所が変更になり、登録を更新したい場合など、既存の登録が編集できると便利な場合があります。また、登録を削除したり、リプレイされる登録の自動送信を有効または無効にしたりすることができます。別のコンピュータで使用するために登録をエクスポートできます。エクスポートされた登録は *.pb 拡張子を持つファイルとして保存され、後でインポートすることができます。

▶ 登録を管理するには：

- 1 [スタート] - [プログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイOMETリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [ユーザー設定] を選択します。[設定] - [ユーザー設定] を選択します。認証が必要です。プロンプトが表示されたら指紋センサーで指を読み取ります。
- 3 [登録] タブを選択します。



- 4 使用する登録を選択します。
 - ・ 登録に保存された既定の名前を変更するには、[名前変更] ボタンをクリックします。入力した名前はバイOMETリックメニューに表示される説明にすぎず、登録とともに保存される情報には影響しません。
 - ・ 登録を削除するには、[削除] ボタンをクリックします。
 - ・ [編集] ボタンをクリックして、保存されている登録の詳細を変更します(ユーザー名またはパスワードを変更し、既存の登録に反映する場合など)。[自動送信フォーム] チェックボックスは、登録のリプレイ後にフォームを自動提出するかどうかを制御します。オンにした場合は、

指を読み取った後に登録が自動的にリプレイされます。オフにした場合は、リプレイの実行を確認するダイアログが表示されます。これは、登録したダイアログまたはサイトにアクセスするたびに表示されます。

- 別のデバイスで使用するなどの理由で登録内容をエクスポートするには、[エクスポート] ボタンをクリックします。エクスポートする登録を選択するか、既存のすべての登録を自動的にエクスポートします。登録の選択を追加するには、**Ctrl** または **Shift** を押しながら、登録を選択します。エクスポート先ファイルを選択し、パスワードを入力します。このパスワードはこれらの登録をインポートする際に使用されます。パスワードバンクファイルのファイル拡張子は **.pb** です。

- パスワードバンクファイルから登録をインポートするには、[インポート] ボタンをクリックします。インポートする **.pb** ファイルを選択します。インポートする登録がすでに存在する場合、既存の登録をインポートする登録で上書きするか、インポートした登録を登録の一覧に追加するかを選択します（既存の登録を維持し、同じ名前の登録をインストールした場合、登録名の後の数字が ***.pb** ファイルからの登録の新しいインスタンスを示します）。エクスポート時に作成したパスワードを入力します。

パスワードバンクのヒントの有効化 / 無効化

パスワードバンクでは、ダイアログの登録、ダイアログのリプレイなどの操作が可能の場合に、ユーザーにヒントが表示されます。このようなヒントは [ユーザー設定] ダイアログで有効または無効にすることができます。ただし、ユーザーがユーザー名とパスワードで **Windows** にログインした場合、指紋認証を行うまでヒントは表示されません。

▶ ヒントの有効 / 無効を切り替えるには

- 1 [スタート] - [プログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [ユーザー設定] を選択します。認証が必要です。プロンプトが表示されたら指紋センサーで指をスキャンします。
- 3 [パスワードバンク] を選択します。
- 4 表示するヒントを選択します。

- ・登録がリプレイされる場合に通知する - 登録のリプレイが開始されることを通知します。この通知は、同じフォームまたはダイアログの登録をさらに作成したい場合や、既に入力したデータを上書きしたくない場合に便利です。
- ・登録が作成された後に通知する - これは、登録が正常に作成されたことを通知します。このダイアログから登録内容を直接編集するには、[編集] をクリックします。
- ・パスワードフィールドが編集可能な場合に通知する - これは、パスワードフィールドが読み取り可能なフォームに表示されることを通知します。
- ・ダイアログがリプレイ可能な場合に通知する - これは、登録のリプレイが可能なことを通知します。
- ・ダイアログが登録に適している場合に通知する - ダイアログに登録可能なパスワードフィールドが含まれていることを通知します。
- ・Web サイトがリプレイ可能な場合に通知する - 登録のリプレイが可能なことを通知します。
- ・Web サイトが登録に適している場合に通知する - そのページに登録可能なパスワードフィールドが含まれていることを通知します。

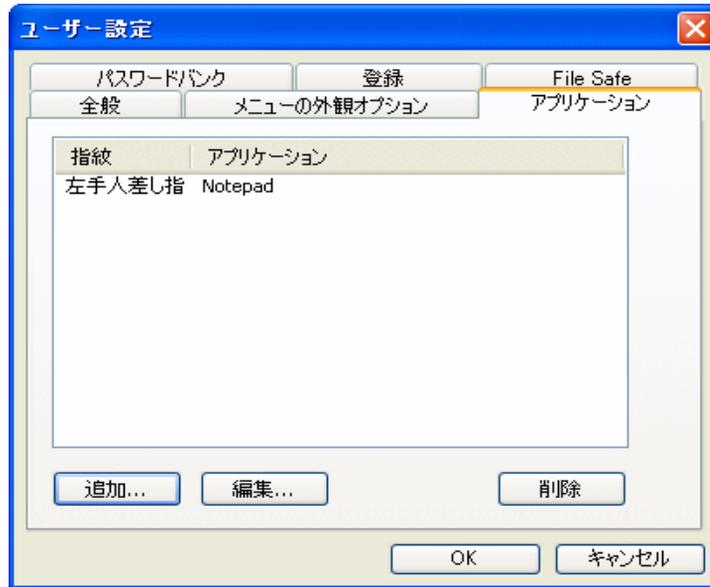
アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは、Protector Suite QL ソフトウェアのオプションの機能です。

インストールすると、指をセンサーでスキャンするだけで、登録済みのアプリケーションを起動できます。

バイオメトリックメニューの表示用に、少なくとも1つは登録済みの指を未割り当てのままにしておく必要があります。アプリケーションの起動で使える指の本数は、登録済みの指の本数 - 1 となります。

アプリケーションの起動を無効にしてバイオメトリックメニューを起動するには、Shift キーを押しながら指を読み取ります。



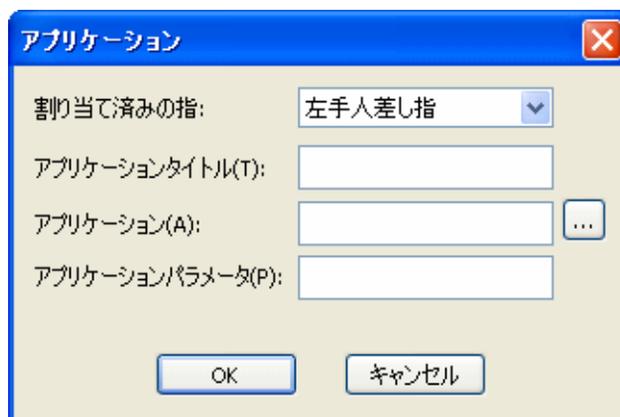
▶ 登録した指とアプリケーションを関連付けるには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定]- [ユーザー設定] を選択します。認証が必要です。プロンプトが表示されたら指紋センサーで指を読み取ります。
- 3 [アプリケーション] タブを選択します。
- 4 [追加] ボタンをクリックします。[アプリケーション] ダイアログが開きます。
- 5 登録済みの指のうち、まだアプリケーションに関連付けられていないものを選択します。利用可能な指がない場合は、指紋をさらに登録するよう求めるダイアログが表示されます。
- 6 アプリケーション名を入力します(この名前は [ユーザー設定] の [アプリケーション] タブに表示されます)。
- 7 起動したいファイルを参照します。任意の実行可能ファイル (Iexplorer.exe など) を参照できます。

- 8 オプションで、[アプリケーションパラメータ] フィールドに追加のパラメータを入力できます。不明な場合は、このフィールドを空白のままにします。アプリケーションパラメータの例は、以下を参照してください。
- 9 [OK] をクリックします。

アプリケーションパラメータの例

- Web サイトは、Internet Explorer などの Web ブラウザを起動すると開くことができます。Web サイトのアドレス (www.upek.com など) を [アプリケーションパラメータ] フィールドに入力すると、登録した指をスキャンしてブラウザを起動するたびに Web サイトが起動されます。



- ファイルは、Microsoft Word ドキュメントなどのアプリケーションによって開くことができます。ファイルへのパスを、"C:\Documents and Settings\your.account\My Documents\document.doc" のように引用符で囲んで入力します。指をスキャンするたびに、document.doc というファイルが word で開きます。1つのアプリケーションに対して複数のパラメータを使用できます。

▶ 指とアプリケーションの組み合わせを後から編集するには

- 1 [アプリケーション] タブでアプリケーションを選択します。
- 2 [編集] ボタンをクリックします。
- 3 [アプリケーション] タブで必要な変更を行います。
- 4 [OK] をクリックします。

▶ 指とアプリケーションの組み合わせを削除するには

- 1 [アプリケーション] タブでアプリケーションを選択します。
- 2 [削除] ボタンをクリックします。

[アプリケーション] タブで行った変更を保存するには、[ユーザー設定] ダイアログで [OK] をクリックします。



File Safe

File Safe は、Protector Suite QL のオプションの機能です。

File Safe を使用すると、ファイルをハードドライブ上の暗号化アーカイブに格納できます。暗号化アーカイブにはファイルまたはフォルダを格納でき、指紋認証またはアーカイブ作成時に設定したパスワードで保護されます。File Safe アーカイブがアンロックされている場合、アーカイブファイルでは標準のファイルと同様の操作(削除、コピー、ファイル名の変更など)を実行できます。ドラッグアンドドロップにも対応しています。アンロックされたアーカイブにファイルをコピーして貼り付けるかドラッグし、再びアーカイブをロックすると、ファイルは暗号化されます。アーカイブ内で1つのファイルだけが暗号化されており、そのファイルがアンロックされている場合、ファイルをクリックして起動できます。また、指紋を登録済みの他のユーザーと暗号化アーカイブを共有することもできます。

ファイルの暗号化 (File Safe アーカイブへのファイルまたはフォルダの追加)

コンピュータにログオンして、ファイルを暗号化アーカイブに追加します。



メモ：アーカイブを作成する前に指紋を登録する必要があります。登録されていない場合、ユーザーが選択されていないという警告が表示されます。指紋の登録方法については、「指紋の登録」を参照してください。

▶ 新しい File Safe アーカイブにファイルまたはフォルダを追加するには：

- 1 Windows エクスプローラまたはその他の Windows ダイアログを使用して、暗号化するファイルまたはフォルダを表示します。
- 2 マウスおよび Shift または Ctrl キーを使用してファイルまたはフォルダ(あるいはその両方)を選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 3 [新しい暗号化アーカイブに追加] を選択します。



- 4 次の操作を求めるダイアログが表示されます。
 - ・宛先フォルダを選択します (フォルダを参照して選択するには、[...] をクリックします)。
 - ・パスワードを選択します。詳細については以下の説明を参照してください。
 - ・[詳細 >>] をクリックし、暗号化ファイルにアクセスできるユーザーを選択します。
 - ・[OK] をクリックします。指をセンサーで読み取って、ID を認証するよう求められます。
- 5 ファイルが暗号化されたら、元のファイルの取り扱いを選択するよう求めるダイアログが表示されます。
 - ・[元のファイルを維持] を選択すると、元のファイルは削除されず、暗号化アーカイブに保存されると同時に、暗号化されないまま元の場所にも残ります。
 - ・[元のファイルを削除] を選択すると、元のファイルは削除され、ファイルはアーカイブ内に暗号化された形式でのみ維持されます。
 - ・削除するファイルをランダムな内容で上書きしてから削除するには、[ファイルをワイプしてから削除する] チェックボックスを選択します。これにより、削除したファイルが回復されるのを防ぐことができます。
- 6 暗号化アーカイブが作成されました。アーカイブの拡張子は *.usa、または暗号化されたファイルが 1 つだけの場合は *.ueaf です。

パスワードのタイプ：

- [バックアップパスワードを使用しない] を選択すると、アーカイブは指紋のみで保護された状態になります。指紋認証が不可能な場合(ケガ、デバイスの問題など)には、File Safe アーカイブに格納されているファイルにアクセスする方法がありません。)
- [グローバル File Safe バックアップパスワードを使用する] を選択すると、グローバルパスワード、つまりすべてのアーカイブに共通のバックアップパスワードが設定されます。これは、アーカイブを作成するたびに異なるパスワードを使用したくない場合に役立ちます。まだグローバルバックアップパスワードを設定していない場合、このオプションは灰色表示されます。グローバルバックアップパスワードを設定または変更する方法については、48 ページの「File Safe アーカイブの管理」を参照してください。
- [以下のバックアップパスワードを使用する] を選択すると、現在の File Safe アーカイブに対して新しいパスワードを作成できます。

バックアップパスワードを使用することを推奨します。バックアップパスワードがないと、指のケガやデバイスの問題などで指紋認証が使用できなくなったときに、アーカイブのロックを解除できなくなります。8 文字以上の長さで英数字以外の文字を含むなど、強力なパスワードを使用してください。

指紋認証が使用できなくなった場合には、バックアップパスワードを要求するダイアログが表示されます。このダイアログを強制的に表示し、指のスキャンを求めるダイアログを閉じることで指紋認証をスキップできます。



メモ：バックアップパスワードを設定せずに登録済みの指紋を削除した場合、ロックされた File Safe アーカイブを開けなくなります。指紋を削除する前に File Safe アーカイブをアンロックしてファイルを移動するか、またはバックアップパスワードを設定してください。

▶ 既存の File Safe アーカイブにファイルまたはフォルダを追加するには：

- 1 Windows エクスプローラまたはその他の Windows ダイアログを使用して、暗号化するファイルまたはフォルダを表示します。

- 2 マウスおよび **Shift** または **Ctrl** キーを使用してファイルまたはフォルダ (あるいはその両方) を選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 3 [既存の暗号化アーカイブに追加] を選択します。
- 4 ファイルを保存するアーカイブを参照して選択します (ファイルの拡張子は *.uea です)。
- 5 [開く] を選択します。
- 6 プロンプトが表示されたら、指をセンサーでスキャンします。
- 7 ファイルが暗号化されたら、元のファイルの取り扱いを選択するよう求めるダイアログが表示されます。
 - ・ [元のファイルを維持] を選択すると、元のファイルは削除されず、暗号化アーカイブに保存されると同時に、暗号化されないまま元の場所にも残ります。
 - ・ [元のファイルを削除] を選択すると、元のファイルは削除され、ファイルはアーカイブ内に暗号化された形式でのみ維持されます。
 - ・ 削除するファイルをランダムな内容で上書きしてから削除するには、[ファイルをワイプしてから削除する] チェックボックスを選択します。これにより、削除したファイルが回復されるのを防ぐことができます。ファイルは、暗号化 File Safe アーカイブに追加されました。

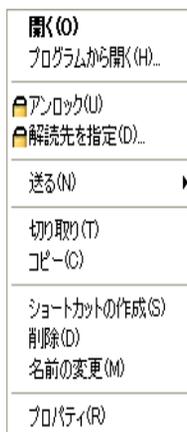
File Safe アーカイブのロックとアンロック

コンピュータにログオンして、暗号化 File Safe アーカイブをロックまたはアンロックします。

File Safe アーカイブがアンロックされている場合、アーカイブファイルでは標準のファイルと同様の操作 (削除、コピー、ファイル名の変更など) を実行できます。ドラッグアンドドロップにも対応しています。アーカイブ内で1つのファイルだけが暗号化されており、そのファイルがアンロックされている場合、ファイルをクリックして起動できます。標準の File Safe アーカイブと同様にアンロックします。

▶ File Safe アーカイブをして開くには :

- 1 開くアーカイブファイル (*.uea または *.ueaf) を選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 2 [開く] または [アンロック] を選択します。



- 3 指をスキャンするかバックアップパスワードを入力して ID を認証するよう求められます(これは、アーカイブの作成時の設定内容によります。)
- 4 アーカイブがアンロックされます。アーカイブファイルで標準のファイルと同様の操作(削除、コピー、ファイル名の変更など)を実行できます。または、単独のファイルアーカイブ(*.ueaf)の場合は、アーカイブ内のファイルが起動します(テキストドキュメントが開きます)。



メモ：アーカイブをダブルクリックすると、

- ・アーカイブがロックされている場合は、認証(指のスキャン、パスワードの入力)するよう求められ、アーカイブフォルダがアンロックされて開きます。
- ・アーカイブがすでにアンロックされている場合は、アーカイブフォルダが開きます。
- ・暗号化されたファイルが1つしかなく、そのファイルがロックされている場合は、認証するよう求められ、ファイルが起動されます。
- ・暗号化されたファイルが1つしかなく、そのファイルがアンロックされている場合は、ファイルが起動されます。

▶ File Safe アーカイブをロックするには：

- 1 アンロックされたアーカイブファイル(*.uea または *.ueaf) を選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。

- 2 [ロック] を選択します。ここでは認証の必要はありません。
- 3 アーカイブがロックされました。

▶ **すべての File Safe アーカイブをするには：**

- 1 指をセンサーでスキャンしてバイオメトリックメニューを表示します。
- 2 メニューから [すべてのアーカイブをロック] を選択します。ここでは認証の必要はありません。
- 3 アンロックされていたすべてのアーカイブがロックされました。

File Safe アーカイブのファイルの解読

コンピュータにログオンして、File Safe アーカイブからファイルまたはフォルダを解読します。File Safe 全体を選択してその中のすべてのファイルを解読するか、アーカイブ内のファイルを個別に選択して、それらを解読することができます。

▶ **File Safe アーカイブ内のすべてのファイルまたはフォルダを一度に解読するには：**

- 1 解読するアーカイブファイル (*.uea または *.ueaf) を選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 2 [解読先を指定 ...] を選択します。
- 3 解読したファイルの保存先となる場所を選択します。
- 4 指をスキャンするか、パスワードを入力して ID を認証するように求められます (これはアーカイブの作成時に設定したオプションによって異なります)。
- 5 ファイルが保存先の場所に解読されます。

ファイルを再び暗号化するか、新しいアーカイブを作成するには、40 ページの「ファイルの暗号化 (File Safe アーカイブへのファイルまたはフォルダの追加)」を参照してください。

▶ **File Safe アーカイブから選択したファイルまたはフォルダを解読するには：**

- 1 解読するアーカイブファイル (*.uea) を選択して、開きます (ダブルクリックします。ロックされている場合は認証します)。

- 2 マウスおよび **Shift** または **Ctrl** キーを使用して、解読するファイルを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 3 [解読先を指定 ...] を選択します。
- 4 解読したファイルの保存先となる場所を選択します。
- 5 アーカイブ内の元のファイルの取り扱いを選択します。元のファイルを削除 - 解読したファイルはアーカイブから削除されます。
元のファイルを維持 - 暗号化アーカイブ内のファイルは維持されます。
- 6 ファイルが保存先の場所に解読されます。
ファイルを再び暗号化するか、新しいアーカイブを作成するには、40 ページの「ファイルの暗号化 (File Safe アーカイブへのファイルまたはフォルダの追加)」を参照してください。

File Safe アーカイブへのアクセスの共有

ユーザーは File Safe アーカイブを共有できます。アーカイブを作成するときには、登録された指紋を使用して共有アーカイブにアクセスできるユーザーを選択できます。また、後から **File Safe** のプロパティでユーザーにアクセスを許可したり、ユーザーのアクセスを拒否したりすることもできます。アーカイブには、(アーカイブの共有権限を持つユーザーだけでなく)すべてのユーザーが有効なバックアップパスワードを使用してアクセスできます。

 **重要：**アーカイブを共有しているすべてのユーザーは同じアクセス権を持ちます。これには、ファイルの削除と追加、アーカイブにアクセスするためのパスワードの変更、他のユーザーのアクセスの拒否などを行えるアクセス権が含まれます。

▶ アーカイブ作成時にユーザーのアクセスを許可するには：

- 1 暗号化するファイルを右クリックし、メニューから [新しい暗号化アーカイブに追加] を選択します。
- 2 バックアップパスワードを選択します。すべてのユーザーが同じバックアップパスワードを使用します。
- 3 [詳細 >>] をクリックします。



- 4 登録済みユーザーの一覧を示した [暗号化の対象とするユーザー] ウィンドウが表示されます。アーカイブを共有するユーザーをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。選択されたすべてのユーザーは、指をセンサーでスキャンすることによってアーカイブをアンロックできます。

▶ **File Safe** プロパティでユーザーのアクセスを許可または拒否するには：

- 1 アーカイブファイル (*.uea または *.ueaf) を選択します。
- 2 右クリックしてコンテキストメニューを表示し、[プロパティ] を選択します。
- 3 アーカイブがロックされている場合は、[アンロック] をクリックしてプロパティオプションを操作できるようにします。指紋またはバックアップパスワードで認証します。
- 4 ここで、アーカイブのパスワードを変更できます。すべてのユーザーのパスワードが変更されます。[アクセスを許可するユーザー] ウィンドウで、アクセスを許可または拒否するユーザーを選択します。選択されたすべてのユーザーは、指をセンサーでスキャンすることによってアーカイブをアンロックできます。
- 5 アーカイブをロックする場合は、[ロック] をクリックします。

グローバルバックアップパスワードを使用する場合、アーカイブを作成したユーザーのユーザー設定で指定されているグローバルバックアップパスワードが設定されます。このパスワードを変更しても、作成済みの File Safe アーカイブには影響しません。

他のユーザーが自分の File Safe にアクセスできるようにする場合は、アーカイブファイルをコンピュータ上の共有フォルダに置く必要があります。

 メモ：ログオンしているユーザーがアーカイブをアンロックし、ログアウトせずに、またはコンピュータを再起動せずにユーザーが切り替わった場合、アクセスが共有されていても、次にログオンしたユーザーはアーカイブにアクセスできません。アーカイブを共有する場合は、ユーザーを切り替える前にアーカイブをロックしてください。

File Safe アーカイブの管理

▶ File Safe アーカイブのプロパティにアクセスするには：

- 1 アーカイブファイル (*.uea または *.ueaf) を選択します。
- 2 右クリックしてコンテキストメニューを表示し、[プロパティ] を選択します。
- 3 [File Safe] タブを選択します。
- 4 アーカイブがロックされている場合は、[アンロック] をクリックしてプロパティオプションを操作できるようにします。指紋またはバックアップパスワードで認証します。

ここで、アーカイブで使用されるパスワードのタイプを変更したり、他のユーザーのアクセスを許可または拒否したりできます。

- 5 アーカイブを再びロックするには [ロック] をクリックします。

 メモ：アーカイブをアンロックするにはプロパティにアクセスする必要があります。アーカイブをアンロックするには、[プロパティ] の [アンロック] をクリックするか、アーカイブがアンロック状態とロック状態のどちらになっているかを確認します。

▶ File Safe のバックアップパスワードを変更するには：

- 1 アーカイブファイル (*.uea または *.ueaf) を選択します。

- 2 右クリックしてコンテキストメニューを表示し、[プロパティ] を選択します。
- 3 [File Safe] タブを選択します。
- 4 アーカイブがロックされている場合は、[アンロック] をクリックしてプロパティオプションを操作できるようにします。指紋またはバックアップパスワードで認証します。
- 5 次のオプションを選択します。
 - [バックアップパスワードを消去] を選択してバックアップパスワードを削除します。または
 - [バックアップパスワードを設定] を選択して新しいパスワードを設定するか、すでに設定されている場合は変更します。以下を選択します。

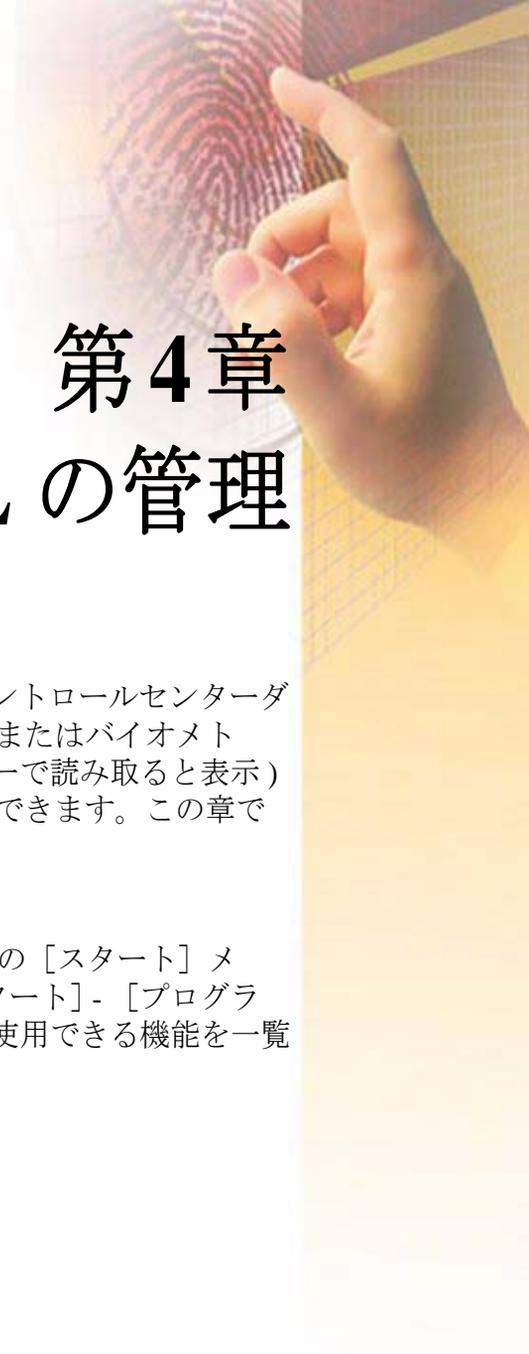
- [グローバル File Safe バックアップパスワードを使用する] を選択して、バックアップパスワードを使用します。このバックアップパスワードは、グローバルバックアップパスワードによる保護を選択したすべてのアーカイブに共通です。このパスワードは [ユーザー設定] で変更できます。
- [以下のバックアップパスワードを使用する] を選択して、アーカイブの新しいパスワードを作成します。

重要：この操作によりアーカイブのバックアップパスワードが変更されます。この変更はアーカイブを共有するすべてのユーザーに影響します。アーカイブへのアクセス権があるすべてのユーザーは、パスワードを変更することができます。

▶ **ユーザー設定でグローバルバックアップパスワードを変更するには：**

- 1 [スタート] - [プログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [ユーザー設定] を選択します。[設定] - [ユーザー設定] を選択します。認証が必要です。プロンプトが表示されたら指紋センサーで指をスキャンします。
- 3 [File Safe] タブを選択します。

- 4 ここで、グローバルバックアップパスワードを変更または設定できます。このパスワードは、グローバルバックアップパスワードで保護するように選択したすべてのアーカイブに共通です(アーカイブの作成時に選択するか、アーカイブの [プロパティ] で設定したもの)。このパスワードを変更しても、すでに作成済みの **File Safe** アーカイブには影響しません。現在ロックされているアーカイブは、そのまま古いパスワードで保護されます。



第4章 Protector Suite QL の管理

Protector Suite QL の機能と設定は、コントロールセンターダイアログ、システムトレイアイコン、またはバイオメトリックメニュー（登録した指をセンサーで読み取ると表示）のいずれかを使用して管理することができます。この章ではこれらの機能について説明します。

Protector Suite QL の機能は、Windows の [スタート] メニューからもアクセスできます。[スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL] を選択して使用できる機能を一覧表示します。

コントロールセンター

コントロールセンターには、指紋の管理および指紋認証ユーティリティの設定に役立つ機能が複数用意されています。これには、[指紋]、[設定]、[ヘルプ]があります。使用できるオプションは、ソフトウェアの状態、使用するハードウェア、およびインストールされているアプリケーションによって異なります。

▶ コントロールセンターを表示するには：

- [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
- 指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始 ...] を選択します。



ユーザーの管理者権限の昇格 (Windows Vista のみ)

システム設定にアクセスして変更したり、他のユーザーのアカウントを管理または変更 (他のユーザーの指紋を登録または削除するなど) したりする場合、ユーザーは自分自身を許可されているユーザーとして認証するなど、管理者権限を昇格する必要があります。

- 1 [ユーザーの管理者権限の昇格] をクリックします。
- 2 [Vista のユーザーアカウントの制御] ダイアログが表示されたら、資格情報を入力してシステムへの認証を行います (または、すでに管理者としてログオンしている場合は、処理の続行を許可します)。
- 3 [コントロールセンター] ダイアログが、今度は盾アイコンなしで表示されます。これで管理者権限が昇格されました。[設定] - [システム設定] にアクセスして、変更できます。

[コントロールセンター] ダイアログを実行するたびに、この手順を繰り返す必要があります。

指紋

ユーザーの指紋は登録、編集および削除することができます。また、パワーオンセキュリティを有効にしている場合は、デバイスメモリに格納されている指紋も管理できます。使用できる機能は、インストールされている **Protector Suite QL** のバージョン、指紋センサー、既存パスポート、および現在のユーザーの管理権限によって異なります。



メモ：使用できる機能は、現在のユーザーの管理権限によって異なります。保護モードでは、指紋管理者に指名されているユーザーが (62 ページの「セキュリティモード」を参照) 全ユーザーのパスポートを登録および編集できます。簡易モードでは、登録または編集できるのは自分自身のパスポートのみです。

指紋の登録、または編集

指紋登録では、ユーザー名、パスワード、指紋 (元のイメージを復元できないように処理したもの)、および自動生成されたセキュリティキーの対応付けを行います。すべてのデータはユーザーの指紋パスポートに格納されます。

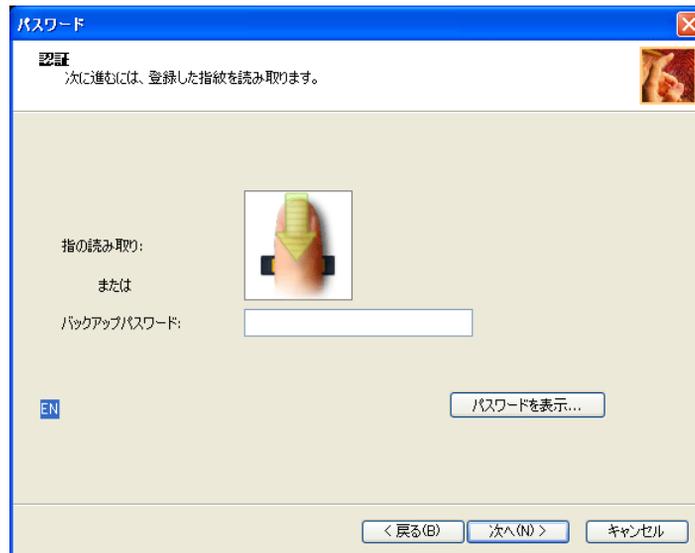
登録後は、ユーザー名とパスワードではなく、指紋で認証できるようになります。

▶ パスポートを登録または編集するには (指紋の登録または編集) :

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。

または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。

- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [指紋の登録または編集] をクリックします。
(インストール後、ユーザーをまだ1人も登録していない場合、このセクションには初期化ウィザードしか表示されません。登録タイプを選択すると登録ウィザードが自動的に開始されます)。
保護モードでは (62 ページの「セキュリティモード」参照)、既存のパスポートが一覧表示されます。ユーザーを選択し、[編集] ボタンをクリックして、既存ユーザーの指紋を編集するか、[登録] をクリックして新しいユーザーを登録します。
- 4 [登録ウィザード] 画面が表示されます。
- 5 指紋センサーで指を読み取るか、Windows パスワードまたは拡張セキュリティのバックアップパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。



- 6 次のいずれかの操作をしてください。
 - ・ 新しい指紋を登録するには：
 - 登録する指を選択し、指の上にあるボックスをクリックします。
 - 選択した指を指紋センサーで読み取ります。1つの指紋の登録には3つの正常な画像が必要です(詳細については、第3章、14ページの「指紋の登録」を参照してください)。

- ・ 指紋を削除するには：
 - 削除する指を選択し、指の上にあるボックスをクリックします。
 - [OK] をクリックします。

- 7 (オプション) デバイスへの登録が選択され、システム設定でパワーオンセキュリティが有効になっている場合、登録されているすべての指紋はパワーオンセキュリティにも使用されます。
- 8 (オプション) ハードドライブへの登録が選択され、システム設定でパワーオンセキュリティが有効になっている場合、登録されている指紋はパワーオンセキュリティにも使用されます。
- 9 デバイスのメモリには制限があるため、格納できる指紋の数は最大で 21 個です。パスポートに登録されている指紋の中に、デバイスのパワーオンセキュリティに割り当てられていないものがある場合 (別のデバイスが接続されている場合など)、それぞれの指の上に [パワーオン] ボタンが表示されます。既定では、[パワーオン] ボタンは " 押された " 状態で表示されます。対応する指がパワーオンセキュリティに使用されます。パワーオンセキュリティに指を使用せず、ログオンにのみ使用する場合、[パワーオン] ボタンをクリックして、デバイスメモリから指を削除します。
- 10 [次へ] をクリックして、登録を終了するか、または 14 ページの「指紋の登録」で説明されている追加のオプション設定 (拡張セキュリティなど) を行います。

削除

使用できる機能は現在のユーザーの管理者権限によって異なります。保護モードでは (62 ページの「セキュリティモード」を参照)、指紋管理者に指名されているユーザーのみがユーザーパスポートを削除できます。

▶ 既存のパスポートを削除するには (全ユーザーのデータ)

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [指紋] をクリックします。

- 3 [削除] をクリックします。
簡易モードでは、指を読み取って認証するか、パスポートの削除を確認します。
保護モードでは、既存のパスポートが一覧表示されます。削除するパスポートを選択し、削除を確認してください。

ユーザーパスポートのインポートまたはエクスポート

既存のユーザーデータ (指紋、暗号化キー、ログオン資格情報を含む) は、*.vtp ファイル (パスポートファイル) にエクスポートしたり、指紋認証ユーティリティに再びインポートしたりできます。*.vtp ファイルは、エクスポート時に指定したパスワードを使って暗号化されます。既存ユーザーのパスポートはインポートできません。この場合、最初にユーザーパスポートを削除する必要があります。



ヒント：バックアップを作成するためにパスポートをエクスポートすることをお勧めします。

▶ 既存のパスポートをエクスポートするには

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [ユーザーデータのインポートまたはエクスポート] をクリックします。
保護モードでは、既存のパスポートが一覧表示されます。エクスポートするパスポートを選択し、[エクスポート] をクリックします)。
- 4 エクスポート先のファイル (*.vtp) を選択します。
- 5 エクスポートされたデータを保護するパスワードを指定します。
- 6 エクスポートするパスポートに含まれている指を認証します。

▶ パスポートをインポートするには

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。

または、指を読み取ってバイOMETリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。

- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [ユーザーデータのインポートまたはエクスポート] をクリックします。セキュアモードでは、既存のパスポートが一覧表示されます。[インポート] をクリックします。
- 4 パスポートファイル (*.vtp) を参照します。
- 5 エクスポート時に指定したパスワードを入力します。

設定

Protector Suite QL の設定ダイアログには Protector Suite QL を設定するためのいくつかのオプションが表示されます。ここで説明する [設定] の一部の機能は表示されない場合があります。使用できる機能は、インストールされている Protector Suite QL のバージョンや、現在のユーザーの管理権限によって異なります。



システム設定

システム設定には、すべてのユーザーに共通の設定が含まれています。この設定は管理者しか操作できません。次の機能は、[システム設定] で設定することができます。

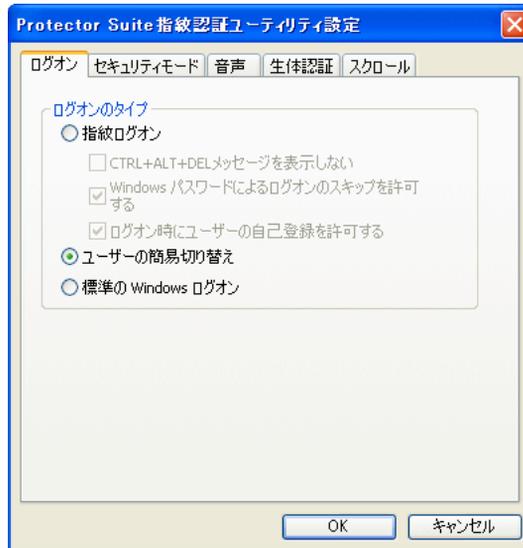
ログオン、セキュリティモード、音声、生体認証、TPM (オプション)、スクロール

 Windows Vista を使用している場合は、[コントロールセンター] の [ユーザーの管理者権限の昇格] をクリックして、[システム設定] や他のユーザーアカウントを変更するための管理権限を取得してください。

ログオン

管理者のみログオン設定を変更することができます。また、変更内容によってはコンピュータの再起動が必要です。[ログオン] 設定画面では、次の設定が可能です。

- Windows ログオンを指紋保護ログオンと置き換える
- パワーオンセキュリティにより認証済みユーザーが自動的にログオンできるようにする (オプション)
- ユーザーの簡易切り替え機能を有効にする (オプション)。



▶ ログオン設定を変更するには：

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイOMETリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [システム設定設定] - [ログオン] を選択します。
- 3 以下を選択します。
 - ・ 指紋ログオン - このオプションを選択すると、コンピュータへの指紋ログオンが有効になります。

• **CTRL + ALT + DEL** メッセージを表示しない - 標準の **Windows CTRL + ALT + DEL** メッセージが表示されないようにします。
指をスキャンするためのプロンプトだけが表示されます (ユーザー名 / ドメイン / パスワードを入力するログオンダイアログは、**Ctrl + Alt + Delete** キーを押すと呼び出すことができ、これによってユーザーはユーザー名とパスワードを使用してログオンすることができます)。

- Windows パスワードによるログオンのスキップを許可する - このオプションを選択した場合、標準の Windows ログオンを使用できます。オフにすると、ユーザー名とパスワードを使用してログオンできるのは、指紋管理者だけになります。
- ログオン時にユーザーの自己登録を許可する - ユーザーはコンピュータへのログオン時に指を自己登録できます。

 •Windows Vista を使用している場合は、[詳細] をクリックして、ユーザー認証がシステムでどのように管理されているか、資格情報プロバイダの設定を確認してください。詳細については、後述の「Windows Vista の資格情報プロバイダ」を参照してください。

• ユーザーの簡易切り替え

このオプションを選択すると、指紋で制御される、生体認証によるユーザーの簡易切り替えが有効になります(システムでサポートされている場合) ユーザーの簡易切り替えはサポートされているが有効になっていない場合、システムで有効にするよう求められます。ユーザーの簡易切り替えは、コンピュータがドメインのメンバーである場合は有効にできません。

 Windows Vista を使用している場合、このオプションは既定で常にオンとなり、変更できません。

- 標準の Windows ログオン - このオプションを選択すると、指紋ログオンは無効になり、標準の Windows ログオンが使用されます。
- パワーオンセキュリティの単一サインオンを許可する - このオプションを選択すると、パワーオン指紋認証とログオン指紋認証が 1 つのステップで実行されます。

BIOS レベルで認証済みのユーザーは、自動的に Windows にログオンできます。

- 4 [OK] をクリックしてコンピュータを再起動します。

Windows Vista の資格情報プロバイダ

資格情報プロバイダでは、システムの認証にさまざまな方法を指定できます。Microsoft パスワードプロバイダはユーザー名とパスワードを要件とし、指紋プロバイダはセンサーによる指のスキャンを要件とします。資格情報プロバイダの一覧は、特定のシステムの設定によって異なります。

▶ プロバイダの設定を表示するには：

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [システム設定] - [ログオン] を選択します。
- 3 [詳細] をクリックします。
- 4 資格情報プロバイダには、次の機能を定義できます。
 - ・ [ログオン] は、ユーザーがシステムにログオンする際の認証方法を定義します (指紋のみ、名前とパスワードなど)。
 - ・ [アンロック] は、ユーザーがコンピュータをアンロックする際の認証方法に定義します。
 - ・ [管理者として実行] は、Windows Vista の機能です。限定ユーザーとしてログオンしているユーザーが、管理者として認証され、管理者だけに制限されているアプリケーションを実行できます。
 - ・ [パスワードを変更] は、ユーザーパスワードの変更に必要な認証タイプを定義します (指紋認証、ユーザー名とパスワードなど)。
- 5 以下を選択します。
 - ・ [登録されているユーザーのタイル画像をマークする] を選択すると、ユーザーが登録され、ログオンが指紋で管理されることを表すマークとして、指紋のアイコンがユーザーアカウントタイルの画像上に表示されます。選択しない場合、アカウントタイルは通常どおりに表示されます。この設定では、Microsoft パスワードプロバイダが "ラップ" 状態に設定されます (後述の説明を参照)。
 - ・ [ログオン時にユーザーの自己登録を許可する] を選択すると、有効なパスワードがあり、指紋を登録していないユーザーが、コンピュータにログオンするときに指を登録できます。
- 6 プロバイダの設定を変更するには、一覧からプロバイダを選択し、[詳細 ...] をクリックします (またはプロバイダをダブルクリックします)。

 メモ：指紋プロバイダおよび Microsoft パスワードプロバイダをユーザーが設定することはできません。これらの設定は事前定義されています。

- 7 選択したプロバイダを表示するダイアログが表示されます。次のオプションがあります。
- ・ [オン] を選択するとプロバイダがオンになります。たとえば、[ログオン] セクションで指紋プロバイダが [オン] に設定されている場合、ユーザーはコンピュータへのログオン時に指をセンサーでスキャンして認証するよう求められます。
 - ・ [オフ] を選択するとプロバイダがオフになります。たとえば、[ログオン] セクションで Microsoft パスワードプロバイダが [オフ]、指紋プロバイダが [オン] に設定されている場合、ログオン時には指紋認証のみが許可されます。
 - ・ [ラップ] - ラップされたプロバイダはユーザーにはオンになっているように見えますが、このプロバイダの機能は指紋プロバイダによって制御されます。

 指紋プロバイダは、ラップとして設定することはできませんが、他のプロバイダ (Microsoft パスワードプロバイダなど) をラップにすることはできます。

セキュリティモード

Protector Suite QL では、次の3つのセキュリティモードを実行できます。

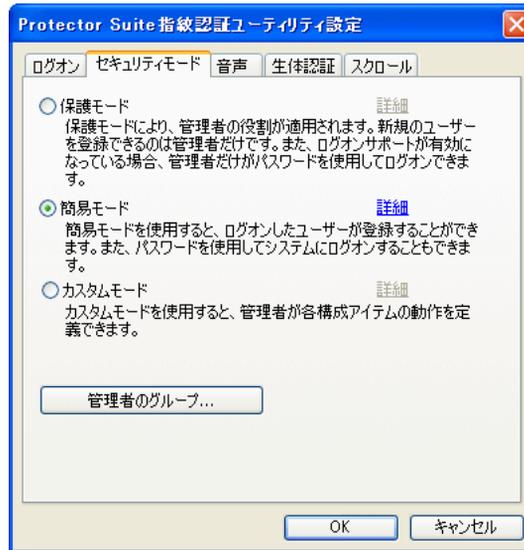
保護モード、簡易モード、およびカスタムモード

これらのセキュリティモードでは、ユーザーに与えられる権限が異なります。これらの権限には、ユーザーを登録する権限、指紋を削除または編集する権限などが含まれます。

[詳細] をクリックすると、各モードのセキュリティポリシーの設定を確認できます。編集できるのは、カスタムモードのポリシーだけです。

指紋管理者のグループ

"指紋管理者"として指定されているユーザーのローカルまたはドメインセキュリティグループの一覧が含まれます。Protector Suite QL のユーザーには管理の管理者権限が与えられます。これらのユーザーの権限は、セキュリティモードのポリシーで指定されます(以下を参照)。



▶ セキュリティモードを選択するには：

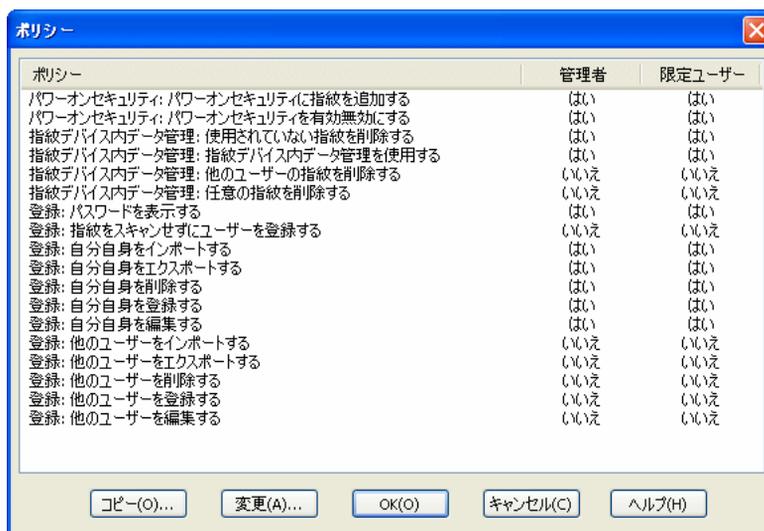
- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイOMETリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [システム設定] を選択します。
- 3 [セキュリティモード] タブを選択します。次のオプションを選択します。
 - ・ **保護モード**。保護モードでは、指紋管理者のみがすべての指紋管理機能(全ユーザーの指紋パスポートの作成、削除など)に無制限にアクセスできます。これらの機能には、指紋デバイス内データ管理およびパワーオンセキュリティ管理も含まれます。
 - ・ **簡易モード**。簡易モードでは、すべてのユーザーが同じ権限を共有します。たとえば、すべてのユーザーが自分自身の指紋パスポートを作成、編集、または削除できます。

- ・ **カスタムモード**。カスタムモードのポリシーの設定は、管理者と限定ユーザーに対して別々にセットアップできます。

4 [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

セキュリティモードのポリシー

保護モードおよび簡易モードのポリシーはあらかじめ設定されており、変更することはできません。変更できるのは、カスタムモードのポリシーだけです。ポリシーを選択してダブルクリックすると、詳細を確認できます。



▶ ポリシーをカスタムモードで編集するには :

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [システム設定] を選択します。
- 3 [セキュリティモード] タブを選択します。
- 4 [カスタム] ラジオボタンをクリックして、[詳細] をクリックします。ポリシーウィンドウが表示されます。以下のポリシーの詳細を参照してください。
- 5 [変更] ボタンをクリックするか、またはダブルクリックして、ポリシー設定を編集します。

6 [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

ポリシーは、指紋管理者と限定ユーザーアカウントに対して別々に定義できます。[許可] または [拒否] を選択して、各ユーザーグループの権限を設定します。

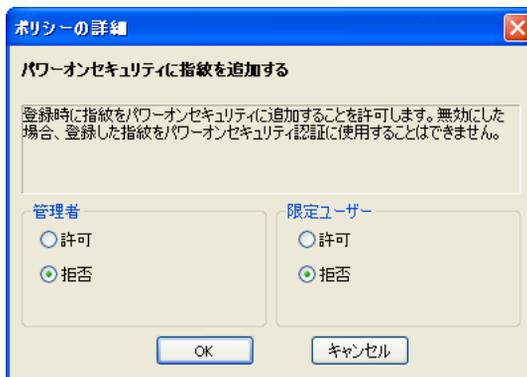
ポリシーの設定を簡易モードまたは保護モードからカスタムモードにコピーし、さらに編集することができます。これは、ポリシーの設定を少しだけ変更したい場合に便利です。

▶ **ポリシーを簡易モードまたは保護モードからコピーするには：**

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [システム設定] をクリックします。
- 3 [セキュリティモード] タブを選択します。
- 4 [カスタム] ラジオボタンをクリックして、[詳細] をクリックします。
ポリシーのウィンドウが表示されます。以下のポリシーの詳細を参照してください。
- 5 [コピー] ボタンをクリックしてポリシーの設定をコピーします。
- 6 [保護モード] または [簡易モード] を選択すると、選択したモードからポリシーの設定がコピーされます。
- 7 これで [変更] ボタンを使用してポリシーを編集できます。
- 8 [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

ポリシーの詳細

ポリシーを選択してダブルクリックすると、詳細を確認できます。



登録：

- 他のユーザーを削除する：このコンピュータに登録されているユーザーの指紋パスポートを削除することを許可します。パスポートを削除する前に認証は必要ありません。
- 自分自身を削除する：認証後に、現在ログオンしているユーザーの指紋パスポートを削除することを許可します。
- 他のユーザーを編集する：このコンピュータに登録されているユーザーの指紋パスポートを編集（登録済みの指紋の追加または削除など）することを許可します。
- 自分自身を編集する：現在ログオンしているユーザーの指紋パスポートを編集（登録済みの指紋の追加または削除など）することを許可します。
- 他のユーザーを登録する：他のユーザーが指紋を登録することを許可します。有効な Windows アカウントを持つユーザーのみ登録できます。
- 自分自身を登録する：現在ログオンしているユーザーが指紋を登録することを許可します。
- 指紋をスキャンせずにユーザーを登録する：ユーザーが指紋のスキャンなしで登録されることを許可します。次回ログオン時に、ユーザーは指紋をスキャンするよう求められます。
- 他のユーザーをエクスポートする：このコンピュータに登録されているユーザーの指紋パスポートをエクスポートすることを許可します。
- 自分自身をエクスポートする：現在ログオンしているユーザーの指紋パスポートをエクスポートすることを許可します。

- 他のユーザーをインポートする：このコンピュータに登録されているユーザーの指紋パスポートをインポートすることを許可します。
- 自分自身をインポートする：現在ログオンしているユーザーの指紋パスポートをインポートすることを許可します。
- パスワードを表示する：指紋の登録時にユーザーの **Windows** パスワードが表示されることを許可します。

指紋デバイス内データ管理：

- 任意の指紋を削除する：デバイスからの指紋の削除を許可します（このポリシーを有効にするには、[指紋デバイス内データ管理を使用する] ポリシーが有効になっている必要があります）。
- 他のユーザーの指紋を削除する：他のユーザーの指紋を削除することを許可します。ただし、各ユーザーに対して1つ以上の指紋を残す必要があります（このポリシーを有効にするには、[指紋デバイス内データ管理を使用する] ポリシーが有効になっている必要があります）。
- 使用されていない指紋を削除する：以前のインストールからの指紋レコードなど、ローカルで登録されているユーザーに属さない指紋レコードを削除することを許可します（このポリシーを有効にするには、[指紋デバイス内データ管理を使用する] ポリシーが有効になっている必要があります）。
- 指紋デバイス内データ管理を使用する：指紋デバイス内データ管理を使用することを許可します。ユーザーは自分自身の指紋のみを削除できます（1つ以上の指紋を残す必要があるため、最後の1つは除きます）。

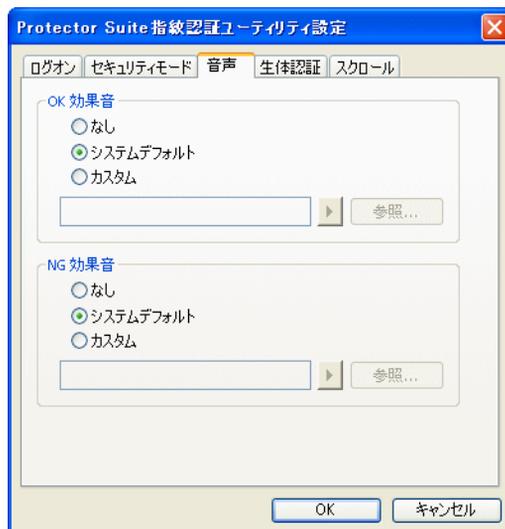
パワーオンセキュリティ：

- パワーオンセキュリティに指紋を追加する：登録時に指紋をパワーオンセキュリティに追加することを許可します。無効にした場合、登録した指紋をパワーオンセキュリティ認証に使用することはできません。
- パワーオンセキュリティを有効/無効にする：このコンピュータでパワーオンセキュリティを有効または無効にすることを許可します。



音声

選択した音声は、指紋の操作が成功または失敗したときに再生されます。既定のシステム音声を使用したり、音声を無効にしたりすることができます。また、任意のオーディオファイル(.wav形式)を参照することもできます。



生体認証

この設定では、指紋センサーのセキュリティレベルの設定を変更できます。変更を加えるたび再起動する必要があります。

▶ 生体認証の設定を変更するには：

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。

または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。

- 2 [設定] - [システム設定] をクリックして、[セキュリティモード] - [生体認証] に移動します。

・ 侵入者ロックアウト

- ロックアウト回数：デバイスをロックするまでの認証の試行(指の読み取り)の失敗回数を設定します。
- ロックアウト時間：デバイスをロックするまでの時間を設定します。設定された時間が経過したら、指紋センサーを再び使用できます。

- ・ 生体認証のパフォーマンス：指紋のスキャンと登録済みサンプルがどれくらい正確に一致する必要があるかを設定します。最低のレベルに設定すると、デバイスのセキュリティが侵害される可能性があることに注意してください。ただし、最高のレベルに設定すると、登録済みサンプルとの完璧な一致が求められるため、許可されているユーザーでも認証に繰り返し失敗する可能性があります。デフォルトのレベル(中)に設定することを推奨します。

TPM (オプション)

このページは、サードパーティーの TPM 管理アプリケーションが検出されたときに表示されます。TPM の初期化により、拡張セキュリティ機能から TPM セキュリティモジュールを使用できるようになります。23 ページの「拡張セキュリティ」を参照してください。

▶ TPM モジュールを初期化するには：

- 1 [TPM を初期化] ボタンをクリックして、TPM 初期化ウィザードを実行します。
- 2 [ようこそ] 画面で [次へ] をクリックします。初期化が行われます。
- 3 操作の結果が表示されます。操作が成功すると、**Protector Suite QL** に TPM セキュリティを追加できます。
- 4 [完了] ボタンをクリックし、ウィザードを終了します。

スクロール

マウスホイールの代わりに指紋センサーを使って、バイオメトリックメニュー (80 ページを参照) や Windows アプリケーションをスクロールできます。

トレイアイコンで [センサーのスクロール機能] を選択する (トレイアイコンを右クリックして機能を選択する) か、スクロール切替ホットキーを押すことにより、スクロール機能のオン/オフを切り替えることができます。

[センサーのスクロール機能] を選択すると、トレイアイコンが変化し、スクロール機能がオンであることが示されます。このホットキーは、**Protector Suite QL** のインストール後、既定では指定されておらず、設定する必要があります (以下を参照)。

▶ スクロール機能とスクロール切替ホットキーを設定するには：

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。



または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。

- 2 [スクロール] タブを選択します。
 - ・ [テストスクロール] ボタンをクリックして、選択した値でスクロールをテストします。
 - ・ [速度] - スライダを使って、スクロールの速さを調節します。これにより、センサー上で指を動かしたときにカーソルがどれくらい移動するかが設定されます。
 - ・ [加速度] - スライダを使って、スクロールの加速度を設定します。センサー上で指を速く動かすほど、スクロールも速くなります。
 - ・ [しきい値] - センサーの感度のしきい値を設定します。数値が小さいほど、一定方向の指の動きに対するセンサーの感度が高くなります。つまり、数値が小さければ、指の動きにセンサーがすばやく反応します。
 - ・ [繰り返し] - センサーに指を平らに置いてから、どのくらい後にセンサーが反応し始めるかを設定します。数値が小さいほど、センサーはすばやく反応します。
 - ・ スクロール切替ホットキーを設定するには、[スクロール切替ホットキー] フィールドにフォーカスを置きます。スクロール機能のオン/オフを切り替えるのに使用するキーを押します。
- 3 [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

ユーザー設定

[ユーザー設定] には、ユーザー指定の設定が含まれています。操作には、該当するユーザーの指紋認証が必要です。

次の機能は、[ユーザー設定] で設定することができます。

全般、バイオメトリックメニューの外観、パスワードバンク、登録、File Safe、アプリケーション

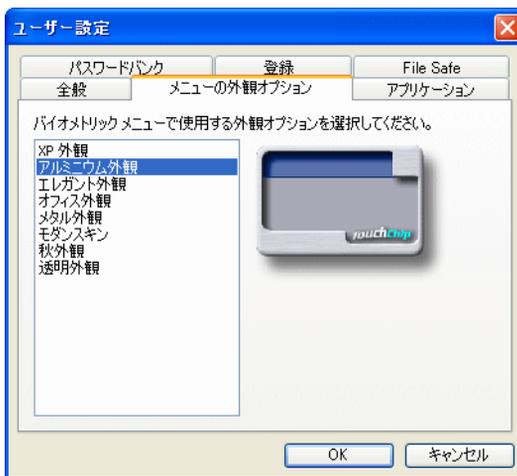
全般

[トレイにアイコンを表示] チェックボックスをオンにするとトレイアイコンが表示され、Protector Suite QL の一部の機能にすばやくアクセスできるようになります。トレイアイコンで利用できる機能については、79 ページの「システムトレイアイコン」を参照してください。

バイオメトリックメニューの外観

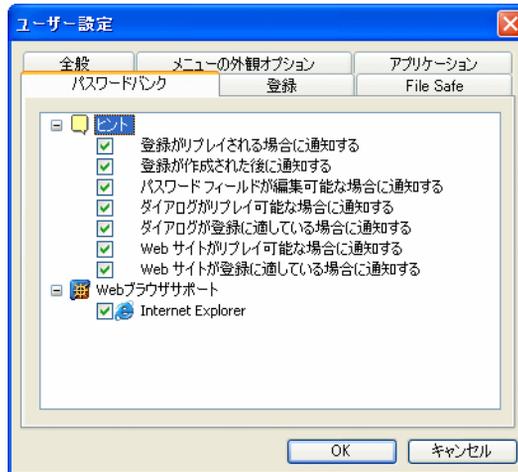
Protector Suite QL のバイオメトリックメニューの外観 (スキン) を選択します。ダイアログの右側にサンプルが表示されます。ただし Windows 2000 では、外観をプレビューすることはできません。

。



パスワードバンク

このダイアログは2つの部分に分かれています。最初の部分には、パスワードバンクの操作に関してユーザーに表示されるヒントの設定が含まれています。各ヒントの説明の前のチェックボックスをオンまたはオフにして、ヒントをブラウザに表示するか非表示にします。



次の部分には、パスワードバンクの使用に関する情報が含まれています。

[Windows ダイアログ] チェックボックスをオンにすると、パスワードバンクを使用して、標準の Windows アプリケーションの資格情報を格納できます。

Internet Explorer での Web 資格情報のサポートは常に存在し、このチェックボックスは、現在のユーザーのブラウザの使用を有効または無効にします。Firefox ブラウザの場合、プラグインをインストールする必要があります。リンクをクリックすると、既定のブラウザのウィンドウが開きます。この場合、Firefox を既定のブラウザとして設定する必要があります。また、インストールは、標準のプラグインインストールとして、Firefox から直接開始できます。

パスワードバンクの詳細については、第 3 章、29 ページの [パスワードバンク] を参照してください。

登録

このダイアログには、既存のパスワードバンクの登録がすべて表示されます。登録済みのページとダイアログが表示されます。

一覧から登録を選択し、登録の名前を変更する場合は [名前変更] ボタン、登録を編集する場合は [編集] ボタン、登録を削除する場合は [削除] ボタンをクリックします。別のコンピュータでの使用またはバックアップのために登録をエクスポートするには [エクスポート] をクリックし、エクスポートファイルから登録をインポートするには [インポート] をクリックします。

詳細については、第 3 章、33 ページの [登録の管理] を参照してください。

File Safe

暗号化 File Safe アーカイブに格納されているファイルを保護するパスワードを設定または変更できます。このパスワードは、グローバルバックアップパスワードで保護するように設定されているすべてのアーカイブを保護します。バックアップパスワードを使用しないと、指紋認証が不可能な場合(怪我、デバイスの問題など)に File Safe アーカイブに格納されているファイルにアクセスする方法がないため、バックアップパスワードを使用することをお勧めします。8文字以上の長さで英数字以外の文字を含むなど、強力なパスワードを使用してください。



メモ：このパスワードを変更しても、作成済みの File Safe アーカイブには影響しません。

パスワードと File Safe の詳細については、第 3 章、40 ページの [ファイルの暗号化 (File Safe アーカイブへのファイルまたはフォルダの追加)] を参照してください。

アプリケーション

指紋で起動できるアプリケーションの一覧が表示されます。

バイオメトリックメニューの表示用に、少なくとも 1 つは登録済みの指を未割り当てのままにしておく必要があります。起動できるアプリケーションの最大数は、登録されている指の数から 1 を引いた数になります。たとえば、2 つのアプリケーションを起動する場合には、少なくとも 3 つの指紋を登録する必要があります。

▶ 登録された指紋でアプリケーションを起動するには：

- 1 [追加] ボタンをクリックします。[アプリケーション] ダイアログが開きます。
- 2 登録済みの指のうち、まだアプリケーションに関連付けられていないものを選択します。利用可能な指がない場合は、指紋をさらに登録するよう求めるダイアログが表示されます。
- 3 アプリケーションの名前を入力します。
- 4 起動したいファイルを参照します。任意の実行可能ファイル (Iexplore.exe など) を参照できます。

- 5 オプションで、[アプリケーションパラメータ] フィールドに追加のパラメータを入力できます (36 ページを参照)。
- 6 [OK] をクリックします。
[アプリケーションランチャー] と [アプリケーションパラメータ] の詳細については、第 3 章、36 ページの [アプリケーションランチャー] を参照してください。

パワーオンセキュリティ (オプション)

パワーオンセキュリティ機能は、ユーザーのコンピュータへの未許可のアクセスを BIOS レベルで防ぎます。パワーオンセキュリティが有効なコンピュータは、指紋認証に成功しない限りハードドライブからオペレーティングシステムを起動しません。

指紋サンプルは、指紋デバイスのメモリに格納されています。コンピュータの起動時に、ユーザーは指紋認証を求められます。指をセンサーでスキャンする時間は限られています。コンピュータは、スキャンされた指紋が指紋デバイスのメモリに格納されているサンプルに一致する場合のみ起動します。認証に成功すると、起動プロセスが通常どおり続行されます。

Protector Suite QL でのパワーオンセキュリティの有効化

パワーオンセキュリティを操作するためのオプションは、この機能がコンピュータでサポートされている場合のみ表示されます。この機能は主にラップトップコンピュータでサポートされています。ほとんどの設定では、最初のユーザーの登録後パワーオンセキュリティが自動的に有効になります。

▶ パワーオンセキュリティを有効または無効にするには：

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [パワーオンセキュリティ] をクリックします
- 3 [パワーオンおよびハードドライブのパスワードを指紋読み取り装置に差し替える] チェックボックスをオンにします。
- 4 [終了] をクリックします。

ハードディスクへの登録が設定されている場合、[パワーオンセキュリティ] ダイアログで使用可能なオプションが増えます。パワーオンセキュリティメモリに存在する指紋は、[パワーオンセキュリティで認証されている指紋] ウィンドウに表示されます。ここでパワーオンセキュリティメモリから指紋を削除することができます。

パワーオンセキュリティに指紋を追加する方法については、第 3 章、14 ページの [指紋の登録] を参照してください。

パワーオンセキュリティの単一サインオン

パワーオンセキュリティは、指紋ログオンと連携するように設定できます。BIOS パワーオンセキュリティ機能で使用される指紋が、ある既存のパスワードの指紋と一致する場合、該当するユーザーは、Windows パスワードを入力せずに自動的にログオンすることができます。

▶ **パワーオンセキュリティで認証済みのユーザーを Windows ログオンで自動的に有効にするには：**

- 1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイOMETリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定] - [システム設定] をクリックします。
- 3 [ログオン] タブを選択します。
- 4 [パワーオンセキュリティの単一サインオンを許可する] チェックボックスをオンにします。



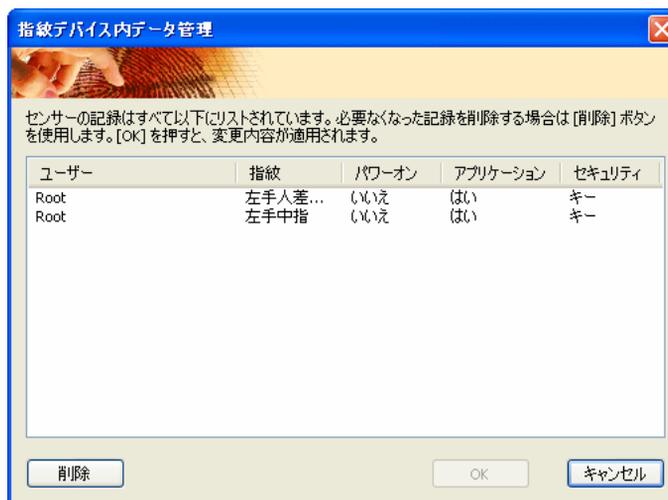
メモ：この単一サインオンを使用するには、使用しているハードウェアでパワーオンセキュリティがサポートされている必要があります。さらに、設定を変更するには、管理者の権限が与えられている必要があります。

指紋デバイス内データ管理 (オプション)

この機能は、デバイスへの登録が使用されている場合にのみ利用可能です。

指紋記憶検査装置は、指紋センサーデバイスに保存されたデータを表示、編集するためのツールです。デバイス中のレコードがすべて表示されます。

指紋ごとに、その指紋の説明や、パワーオンセキュリティ(起動前認証)、アプリケーション(ログオンなど)、拡張セキュリティの状態などの使用方法に関する情報が表示されます。



▶ 指紋をデバイスから削除するには

- 1 データを削除したい場合は、該当するレコードを選択して [削除] ボタンをクリックします。削除すると、レコードの一覧にも反映されます。
- 2 不要なレコードをすべて削除した後 [OK] ボタンをクリックすると、変更が確定します。[キャンセル] をクリックすれば削除を取り消すことができます。

各パスポートに 1 つ以上の指紋を残す必要があります。パスポート全体を管理または削除するには、[指紋の登録、または編集] ウィザードを使用します (53 ページの「指紋の登録、または編集」を参照)。

 **メモ**：指紋を削除するための許可は、セキュリティモードのポリシー設定で指定されます (62 ページの「セキュリティモード」を参照)。一部の権限は指紋管理者のみに制限される可能性があります。

ヘルプ

紹介

Protector Suite QL の基本機能の概要が [紹介] 画面に表示されます。ダイアログのリンクをクリックすると、該当するヘルプトピックが表示されます。

チュートリアル

[指紋チュートリアル] が起動されます。

チュートリアルでは、指紋の正しいスキャン方法、誤ったスキャン方法を、短いビデオで説明しています。また、実際に指紋をスキャンしてみることができます。



詳細については、第 3 章、20 ページの [指紋チュートリアル] を参照してください。

 **メモ** : HTML のヘルプを表示するには、[スタート] - [プログラム] - [ヘルプ] を選択するか、メインの [コントロールセンター] ダイアログで [ヘルプ] アイコンをクリックします。 **Protector Suite QL** 状況依存の HTML ヘルプを表示するには、ヘルプを表示するダイアログボックスで F1 を押します。

バイオメトリックメニュー

バイオメトリックメニューからは、**Protector Suite QL** の機能や設定へアクセスできます。利用可能なアイテムは、インストールされているコンポーネントによって異なります。

▶ **バイオメトリックメニューを表示するには** :

- ・ 指紋センサーで登録する指を読み取ります。

このとき他の機能(登録済みページのリプレイなど)が働いてしまう場合は、**Shift** キーを押しながら指を読み取ってください。

マウスか、センサーを使ってメニューを操作します。センサーを使用する場合は、指を動かしてバイオメトリックメニューを操作し、選択した項目を軽くたたいて該当する機能を実行します。スクロールの設定は、[システム設定] ダイアログで設定できます(69 ページの「スクロール」を参照)。

バイオメトリックメニューは複数の外観で利用可能です。外観を表示または変更するには、[コントロールセンター]- [設定]- [ユーザー設定] を開き、指を読み取って認証し、[メニューの外観オプション] タブに移動します。

• コンピュータをロック

先頭のメニュー項目は、コンピュータを操作できないようロックするコマンドです。コンピュータを再びアンロックするには、指をセンサーでスキャンします。

• 登録済みサイト (オプション)

パスワードバンクに登録されている **Web** ページの一覧を表示します。デフォルトの **Web** ブラウザで登録済みページを表示し、データを入力するには、この一覧で目的の **Web** ページ名をクリックします。

• 登録 ... (オプション)

新しいウィンドウを登録します (**Web** ページまたはダイアログ)。パスワードバンクの登録の詳細については、第 3 章、29 ページの [Web ページとダイアログの登録] を参照してください。

• すべてのアーカイブをロック (オプション)

現在開いているすべての **File Safe** アーカイブをロックします。このアイテムは、2 つ以上のアーカイブがアンロックされている場合にのみ表示されます。

• コントロールセンター ...

[コントロールセンター] ダイアログを表示します (51 ページの「コントロールセンター」を参照)。

• ヘルプ



HTML ヘルプを表示します。状況依存の HTML ヘルプを表示するには、ヘルプを表示するダイアログボックスで F1 を押します。

システムトレイアイコン

システムトレイの Protector Suite QL アイコンは Protector Suite QL が実行中であることを示し、指紋認証が不要な機能はここから操作できます。



指紋の編集 ...

指紋登録ウィザードを開きます。

このウィザードは、コントロールセンターから [指紋] - [指紋の登録、または編集] を選択して開くこともできます。指紋の登録方法の詳細については、**第 3 章、14 ページ**の [指紋の登録] を参照してください。

コントロールセンター開始 ...

Protector Suite QL のコントロールセンターを開始します (51 ページを参照)。

[センサーを使わない] / [センサーを使う]

指紋デバイスを一時的に他のアプリケーションで使用するために、Protector Suite QL から切り離すことができます。このコマンドによって、現在のユーザーセッションから一時的にデバイスが解除されます (デバイスは一度に 1 つのアプリケーションでしか使えません)。

[センサーを使わない] オプションを選択すると、指紋認証は行われません。

重要： この機能は生体認証アプリケーションの開発者などの上級ユーザーのみを対象にしています。

ヘルプ

HTML ヘルプを表示します。状況依存の HTML ヘルプを表示するには、ヘルプを表示するダイアログボックスで F1 を押します。



バージョン情報

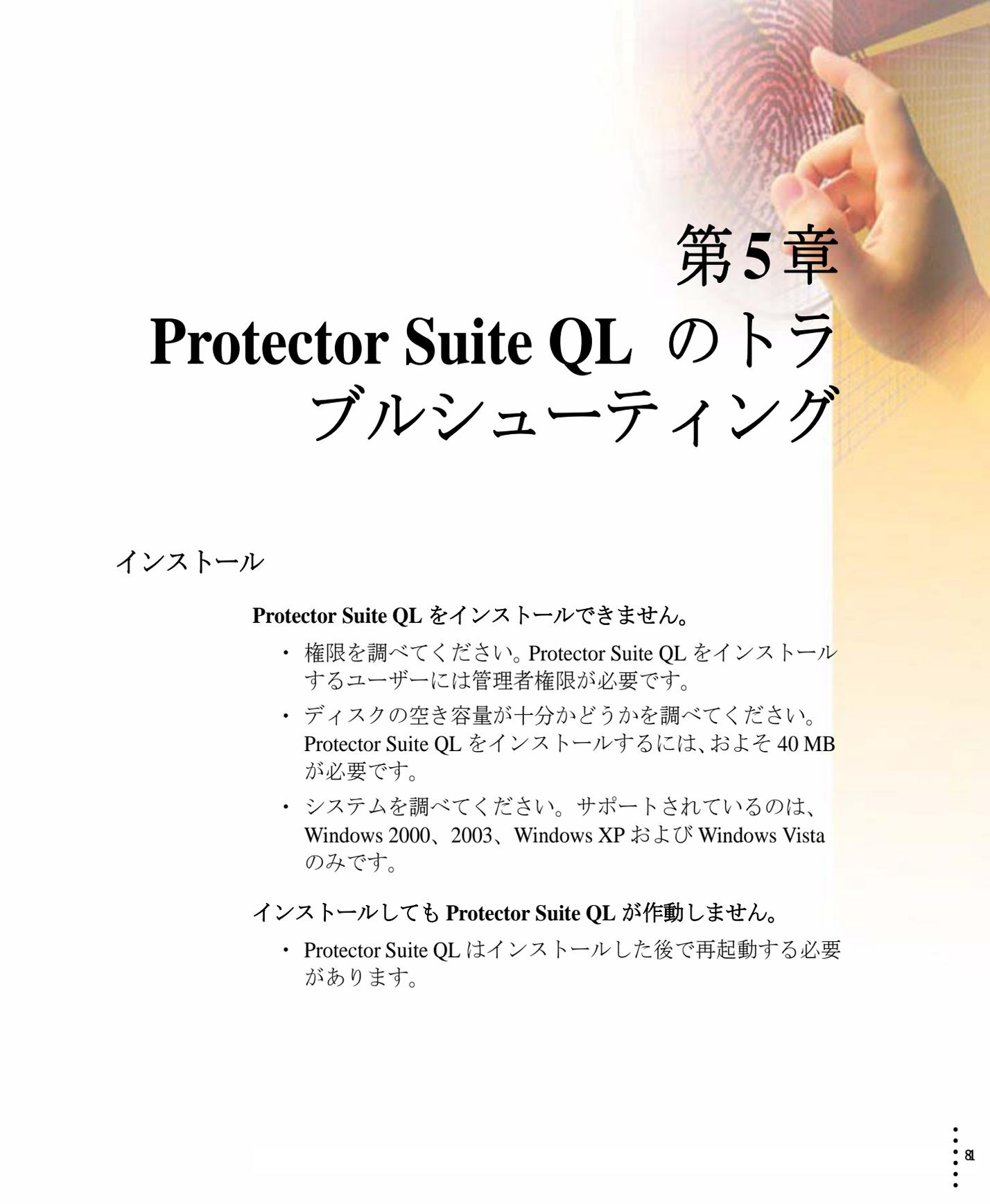
Protector Suite QL の製品情報を表示します。

指紋読み取り装置の情報パネル

指紋読み取り装置の情報パネルには、センサーに関する情報と指紋スキャン用のテストウィンドウが含まれています。ハードウェアで問題が発生した場合は、このダイアログでセンサーに関する詳細を確認して、テクニカルサポートなどに問い合わせることができます。

▶ 指紋読み取り装置の情報パネルを表示するには

- 1 [スタート]- [コントロールパネル] を選択します。
- 2 [指紋センサー] アイコンをクリックします。[指紋読み取り装置の情報パネル] ダイアログが表示されます。
 - ・ [バージョン] タブを選択して、センサーに関する情報 (デバイスのタイプ、名前、バージョンなど) を表示します。情報をテキストファイルにエクスポートするには、[保存] をクリックして、ファイルの保存先を選択します (既定では `FingerprintSensorVersion.txt`)。
 - ・ センサーで指を読み取ったときにスキャンされた指紋のテスト画像を表示するには [指紋のテスト] を選択します。
- 3 [閉じる] をクリックしてダイアログウィンドウを閉じます。



第5章 Protector Suite QL のトラ ブルシューティング

インストール

Protector Suite QL をインストールできません。

- 権限を調べてください。Protector Suite QL をインストールするユーザーには管理者権限が必要です。
- ディスクの空き容量が十分かどうかを調べてください。Protector Suite QL をインストールするには、およそ 40 MB が必要です。
- システムを調べてください。サポートされているのは、Windows 2000、2003、Windows XP および Windows Vista のみです。

インストールしても Protector Suite QL が作動しません。

- Protector Suite QL はインストールした後で再起動する必要があります。

指紋の登録

デバイスが機能しません。

- デバイスの接続を調べてください。
- ドライバが正しくインストールされているかどうかを調べてください。通常、ドライバは Protector Suite QL のインストール時にインストールされます。ただし、問題がある場合には、インストールフォルダの [Drivers] サブフォルダにある必要なドライバを使用できます。デバイス固有のドライバのインストールについては、[Drivers] フォルダの Readme.txt を参照してください。(デバイスのステータスを調べるには、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ]- [ハードウェア] を選択して、[デバイスマネージャ] を開きます。)

指紋を登録できません。指紋が正しく認識されません。

- 指紋チュートリアルを実行して、適切なサンプルを作成する方法を確認してください。指紋チュートリアルは、指紋登録の一部として実行するか、[スタート] メニューから個別に実行できます。
- センサーへの押し付け方を強くまたは弱くしてみてください。
- 指をなぞる速さを変えてみてください。
- センサーを掃除してください。糸くずなどが付いていない布を湿らせて(水または無香料の保湿ローションを使用)、センサーを軽くこすります。傷が付くような布は使用しないでください。
- 指を拭いてください(特に、暑いとき)。
- 別の指で試してください。通常は、人差し指の方が小指よりも簡単に登録できます。

1 本だけ登録している指をケガしたため、指紋認証を使用できません。別の指を登録するにはどうすればよいですか？

Protector Suite QL の全機能を使用するには、使用可能な登録された指紋が必要です。このような問題を避けるために、少なくとも 2 本の指を登録することを強くお勧めします。

登録されている指紋を更新するには、[指紋の登録、または編集] ウィザードを実行する必要があります。

- 拡張セキュリティを使用していない場合は、Windows のパスワードを使用してウィザードを実行できます。

- バックアップパスワード付きの拡張セキュリティを使用している場合は、バックアップパスワードを使用してウィザードを実行できます。
- バックアップパスワードなしの拡張セキュリティを使用している場合、残念ながら別の指紋を追加する方法はありません。この場合、指を読み取れるようになるまで(ケガが治るまで)待つか、パスポートを削除([削除] ウィザード)して新しい指紋を再登録することをお勧めします。パスポートを削除して指紋を再登録すると、保存している機密データ(パスワード、暗号化キー)はすべて失われるので注意してください。削除操作を実行するには、指紋照合操作をキャンセルしてパスワードダイアログを表示し、Windows のパスワードを入力する必要があります。
- [指紋リーダーのキー] または [指紋リーダーキー (TPM あり)] が拡張セキュリティのタイプとして設定されている場合は、登録操作の最後に、デバイスの機密情報をアンロックするために、最初に登録していた指の読み取りを求められます。これは不可能なので、ウィザードを終了する前に拡張セキュリティ機能を無効にする必要があります。ウィザードを終了したら、新たに登録した指を使用してウィザードを開始し、拡張セキュリティを再び有効にします。新しい指紋に関連付けて新たに一連のキーを作成するにはこのような手順が必要です。

登録プロセスを終了した後で、また指の読み取りを求められました。どうしてですか？

このようなメッセージが表示されるのは、拡張セキュリティのバックアップパスワードを使用して [指紋の登録、または編集] ウィザードを実行したとき、[指紋リーダーのキー] または [指紋リーダーキー (TPM あり)] が拡張セキュリティのタイプとして設定されているとき、および新しい指紋をパスポートに追加したときです。

- この動作は正常です。新しい指紋に関連付けて新たに一連のキーを作成するにはこの照合が必要です。

セキュアモードでユーザーを登録できません。

- ユーザーパスポートが存在しているかどうかを調べてください。おそらくユーザーは既に登録されていると考えられます。パスポートは、ユーザーごとに1つしか作成できません。

ユーザーのインポートが機能しません。

- ユーザーパスポートが存在しているかどうかを調べてください。既存のユーザーのデータをインポートする場合は、まず古いパスポートを削除する必要があります。
- [指紋デバイス内データ管理] ([コントロールセンター] - [設定] - [指紋デバイス内データ管理]) でデバイスメモリを調べてください (デバイスへの登録が使用されている場合のみ) 。

なぜユーザーパスポートをエクスポートする必要があるのですか？

エクスポートしたデータには、指紋の情報、ログオン資格情報、パスワードバンク登録、File Safe の暗号情報 (File Safe のデータは含まない) が含まれます。

- これらすべての情報のバックアップとしてユーザーデータを定期的にエクスポートしてください。

拡張セキュリティのバックアップパスワードを紛失しました。

- 拡張セキュリティのバックアップパスワードを変更するには、[指紋の登録、または編集] ウィザードを実行し、指を読み取って、指紋登録を行ってください。拡張セキュリティのページでバックアップパスワードを変更できます。

センサーを交換する必要があります。

壊れた指紋センサーすなわち読み取り装置を交換する場合は、次の手順を実行します。

ハードディスクへの登録

- ハードディスクへの登録を使用している場合、Protector Suite QL はデバイスにはデータを保存しません。このため、センサーを交換した後に処理を行う必要はありません。パワーオンセキュリティ (起動前認証) を使用している場合は、[指紋の登録、または編集] ウィザードを使用して関連データを更新することが必要な場合があります。

デバイスへの登録

- パスポートと指紋デバイスが関連しているため、現在のパスポートを以前エクスポートしたパスポートで置き換える必要があります。

次のようにバックアップを新しいデバイスにインポートして、パスポートを復元することができます。

- 1 パスポートを削除します。
- 2 新しい(機能する)デバイスを接続します。
- 3 バックアップファイルからパスポートをインポートします。

外部読み取り装置の切り替え

- ここで説明した手順は、**Protector Suite QL** で複数の指紋読み取り装置を使用する場合にも使用できます(たとえば、内蔵の読み取り装置と外付けの読み取り装置が1台ずつある場合、あるいは2台の外付け読み取り装置を切り替える場合)。ハードディスクへの登録を使用していれば、通常、問題はありません。ただし、パワーオンセキュリティ(起動前認証)で例外が発生する可能性があります。デバイスへの登録を使用している場合は、十分な理由がない限りは、読み取り装置を切り替えないようにしてください。切り替えると、パスポートの削除と再作成が必要になります。

デバイスへの登録を使用している場合に、コンピュータで認識されているが未登録のユーザーのデータ(別の**Protector Suite QL**または以前の**Protector Suite QL**のデータ)が読み取り装置に含まれていると、そのデータを再利用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

コンピュータで認識されているが未登録のユーザーのデータ(別の**Protector Suite**または以前の**Protector Suite**のデータ)が読み取り装置に含まれていると、そのデータを再利用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

新しい読み取り装置に、既に登録済みのユーザーのデータが含まれていても、そのデータを再利用することはできません。セキュリティ上の理由(認証されていない指紋の追加を回避する)で、デバイスから指紋が削除されます。

TPM モジュールが機能しません。

TPM (Trusted Platform Module) による拡張セキュリティを使用しているときに、TPM モジュールが破損したり、消去されたり、無効になったりした場合、拡張セキュリティは機能しなくなります。

拡張セキュリティのバックアップパスワードを設定している場合は、次の手順を実行します。

- 1 バックアップパスワードを使用して [指紋の登録、または編集] ウィザードを実行します。
- 2 拡張セキュリティを無効にし、終了します。

- 3 TPM を修復または有効にした後で、あるいは TPM が消去された場合はそのままの状態、指を読み取って [指紋の登録、または編集] ウィザードを再び実行し、TPM による拡張セキュリティを再び有効にします。

ユーザーの簡易切り替え

ユーザーの簡易切り替えを有効にできません。

このオプションは、Windows XP が稼働するコンピュータのみで表示されます。ユーザーの簡易切り替え機能を使用できるのは、ドメインのメンバではないコンピュータのみです。

- 使用するコンピュータがドメインに含まれないことを確認してください。
- 他のソフトウェア (Novell Client など) をインストールしたためにユーザーの簡易切り替えが使用できなくなることがあります。

ログオン

ユーザー名とパスワードを使用してログオンできません。

- セキュリティモードを調べてください。すべてのユーザーがユーザー名とパスワードでログオンできるのは、簡易モードです。セキュアモードでこのオプションを使用できるのは管理者のみです。

Protector Suite QL System のシステム設定が [コントロールセンター] に表示されていますが、変更できません。

- ユーザー権限を調べてください。システム設定を変更できるのはローカル管理者のみです。ローカル管理者になることと、Protector Suite QL の管理者グループのメンバであることは異なります。このグループのメンバは、パスワード、指紋、パワーオンセキュリティを管理し、ユーザー名とパスワードを使用してログオンできます。

パスワードバンク

登録済みページが **Internet Explorer** で間を置いてリプレイされます。

登録がリプレイされるのは、ページが完全に読み込まれた後だけです。Internet Explorer では、ページがまだ読み込まれていなくても、読み込み済みであると誤って示される (右上隅のアニメーションが停止する) ことがあります。ユー

ザーが [中止] をクリックして読み込みを終了しても、IE でコマンドが無視されて中止されない場合があります。このような場合には、ページの読み込みが完了するまで待ってください。ページが既に読み込まれている場合でも、マウスをアクティブな項目 (フラッシュアニメーションなど) に移動するとオブジェクトの読み込みが開始されるページで、同様の問題が発生することがあります。

- ページが完全に読み込まれるまで待ってください。

既に登録されているページを登録できません。指を読み取ると、リプレイが始まります。

- SHIFT キーを押しながら指を読み取ると、既に登録済みのページまたはダイアログが登録されます (登録のリプレイは行われません)。

パスワードバンクでダイアログを登録できません。

パスワードバンクは、標準のコントロールを含まないダイアログを正しく処理できません。Microsoft Office のダイアログもこれに該当します。

- パスワードバンクは、主に、ユーザー名とパスワードを含む単純な標準のダイアログに対応します。複雑なダイアログや標準以外のダイアログに関しては問題が発生することがあります。

登録が正しくリプレイされません。

- パスワードバンクのリプレイでは、リプレイで使用されるページが、登録の作成時と正確に同じであることが必要です。このため、JavaScript を使用して動的に作成されるページや、見た目が同じでも内容が異なるフォームを含むページでは、問題が発生することがあります。

